

414
A1405
15



英國
部

貨幣委員ノ疑問(丙部ニ係ル)ニ答書ヲ封入シテ公使ビアーレ
ポントヨリ國務卿宛ノ書

ロ 右封入應答書

附録 第一金々鑄造規則

同 第二造幣表類

ハ 貨幣委員ノ疑問(乙部ニ係ル)ニ答書ヲ封入シテ公使ビアーレ

ポントヨリ該委員宛ノ書

三 右封入應答書

大正十一年四月
和綴印信局事務課

不

拜啓 嚮ニ九月十八日付ノ廻章ヲ以テ銀價査査ノ原由復格本位
 法ノ要旨及ヒ此ニ屬スル諸件ニ付米公使及ヒ其他ノ員ニ對ス
 ル疑問書ヲ辱フレ即チ右疑問中造幣ニ関スル分ヲ十月四日ニ
 ロールドデルビニ致シ之カ應答ヲ願セシカ十一月二十一
 日ニ同氏ヨリ一ノ見込書ナルモノヲ得タリ然ルニ其書何人ノ
 手ニ成ルヲ明知セザルカ故ニ直ニ還戻シ以テ其之ヲ製造セル
 人ノ手記ヲ附シテ更ニ其書ノ價ヲ増加セシメシコトヲ告ク乃チ
 造幣副長ノ手記ヲ附シテ復同氏ヨリ余ニ致セリ故ニ茲ニ其書
 附録一包ト共ニ封緘シ以テ當該委員ノ参照ニ供ス然リ而シ
 テ英國左留ノ使ニ使ケル我々ノ對スル疑問ニ付テ著者ノ銀
 行者ニ訪者其他ニ使ケル我々ノ對スル疑問ニ付テ著者ノ銀
 確ヲ得ルニ非サレハ我々ノ對スル疑問ニ付テ著者ノ銀

満足トスルモノヲ得テ以テ其下ニ奉ヒヤシト欲ス書下章ニ我
ニ假ルニ有餘ヨリ展期ヨリハセヨ頓首謹白
一千八百七十六年三月十三日在倫敦

米國公使館

エドワルトツビーアレポンド

國務卿

ハミルトン、フ#レユ閣下

〔口〕右書中封入

貨幣委員ノ疑問ニ付英國造幣副長ノ見込書

右疑問第一(現今英國ニ於ケル造幣及ヒ鐵山ニ係ル規則ヲ全屬シテ送付ヲ乞フ)請求ニ付應答左ノ如シ

造幣規則ノ事

千八百七十年造幣副長第一回年報照ヲ茲ニ封送ス乃チ其書五十七ページニシテ英國造幣規則及ヒ事務章程ヲ具載ス而シテ此書附録ニ貨幣條例ヲ載ス(女王ウ#ウ#クトリヤ即位ニ此條例ハ從前ノ造幣規則及ヒ証憑等ニ係ル諸規則ヲ折衷一定シタルモノナリ)ハ造幣一切ノ事務ハ悉皆此條例ニ照依スル也

鐵山規則ノ事

英國鐵山及ヒ鑛物ニ関スル一カノ規則ニ付最モ正シク在リテ執近ノ事ヲ具載スモノハアレシテ元ルハビヨル氏(倫敦府ニ在リ)ニ

八番法律學舎ニシテ
 各擧 八英四米ニ愛蘭土鑛山
 規則ノ抄略ヲ掲載セル書是ナリ故ニ此書ニ就テ見ルニ
 前二疑問(高ノ々金銀産出高輸出高及上造幣)請求ニ付應答左
 如シ

千八百六十二年	オンス	五、二九九	磅	二〇、三九〇
千八百六十三年	日	五五二	日	一、七四七
千八百六十四年	日	二、八八七	日	九、九九一
千八百六十五年	日	一、六六四	日	五、八二四
千八百六十六年	日	七四三	日	二、六五六
千八百六十七年	日	一、五二〇	日	五、八九〇
千八百六十八年	日	一、〇一二	日	三、五二二

分

千八百六十九年	日	一八	日	六二
千八百七十年	日	一九一	日	七五〇
千八百七十四年	日	三八五	日	一、五四〇
千八百七十五年	日	五七九	日	三、一〇五
千八百五十三年ヨリ七十五年ニ至ル大英國産出鉛量ヨリ得タル銀				
千八百五十三年	オンス	四九六、四七五	オンス	七二六、八五六
千八百五十四年	日	五六二、六五九	日	六三六、六八八
千八百五十五年	日	五六一、九〇六	日	八〇五、三〇四
千八百五十六年	日	六一四、一八八	日	八四一、三二八
千八百五十七年	日	五三三、八六六	日	八三一、〇九八
千八百五十八年	日	五六九、三四五	日	七八四、五〇二
千八百五十九年	日	二八二、七五	日	七六一、〇九〇

千八百六十年	日 五、〇、五〇	千八	十二年	日 六二八、九二〇
千八百六十一年	日 五七〇、四七四	千八百七十三年	日 五三二、〇二七	
千八百六十二年	日 六八六、一二三	千八百七十四年	日 五〇九、五五八	
千八百六十三年	日 六三四、〇〇四	千八百七十五年	日 四八七、三五八	
千八百六十四年	日 六四一、〇八八			

金銀輸出入ノ事

著名ナル地金仲買商社「キスレリ、エンド、アベル」ノ半季報告ニ就キ千八百六十一年以降倫敦府金銀輸出入ヲ掲クルモノヲ採テ以テ其輸出入ニ下表ニ示ス

金銀貨鑄造ノ事

余茲ニ進呈スル所ノ議院報告四通及ヒ造幣副長第六回年報トハ過ル六十年間(七十五年迄ナリ)ノ金銀銅貨鑄造高ヲ具載セルモノニシテ且ツ銀貨幣(トイフ)鑄造及ヒ其他金銀貨幣ニ付

6

テノ條例(年制)第三世即位五十六ヲ制定セルハ其初年即チ千八百十六年ノ事ナリ

第三疑問(金銀開掘及ヒ造幣上ニ関シ便益利用ノ方)請求ニ付應答左ノ如シ

「エ」ル氏技藝製造及ヒ鑛山辭書(ロ)ベルト、ハ、編、輯、係、ル、ア、中、金、銀、銀精製銀分析及ヒ硫磺ノ科目ニ就テ探求スル所アラハ銀、銅及

ヒ硫磺中ヨリ銀ヲ分析スルノ方法如何ハ瞭然タリ又「フ」リツ

「プ」氏著述金銀論「ブルバルト、エ、ン、ド」ノ如キモ亦完備ノ書ナレハ之ニ就テ見レハシ

「四」疑問(地金輸入者ハ幾數日ノ後其改鑄貨請求ニ付左ノ如シ)稅英國造幣局ニ於テハ定規ノ日限ナシ而シテ實際

中ハ地金ヲ輸納スル者ハ常ニ英國銀行而已ニシテ金地金ノ多寡ヲ力故ニ改メ限數ハ五百ルヲア

地金造幣規則

進呈シ以

覽ニハス

第五疑問

貨幣本位或ハ金銀山トスルモハ金銀鑄造ニ

請求ニ付應答左ノ如シ

一 國ニ於テハ現今該事件ニ付一ノ改正ヲ施行セント欲スルモ
ノナシ我輩茲ニ千八百七十二年制定ノ煤山及ヒ其他金銀等
關スル鑛山規則ヲ進呈ス

第六疑問

上ニ列記スル科目ノ他尚ホ米國貨幣委員ノ参照ニ足

七 請求ニ付應答左ノ如シ

銀價墜落ニ付テ下院特選委員ノ報告附錄馬ヲ進呈シテ高覽
ニ供ス此書ハ本年七月ノ刊行ニ係ルヲ以テ銀價ノ低昂輸出入
ノ況景及ヒ其他諸件ニ付近事ヲ具載ス果シテ参考ニ足ルモノ
アラハ幸甚

千八百七十六年十一月十日在倫敦造幣局

造幣副長

シ、ダブ、ユ、フ、レ、ン、ト、ル、謹、白

造幣局輸納金地金改鑄規則

第一款 造幣局ニ於テ金地金領收ノ定日ハ火曜日木曜日土曜日
日一シテ午前十時ヨリ午後二時迄ノ間トス

第二款 金地金ヲ輸納セント欲スル人々ヲシテ無用ノ以勞登
滯ヲ避ケレシメシカ為メ納者ハ二日前以テ造幣副長ニ通報ス
ハシ

第三款 地金輸納ノ際納者ハ造幣局ノ書式ニ照準シ地金一塊
毎ノ印號及ヒ役前ノ分析ノ明細并ニ之ヲ賣渡シタル分析者
ノ氏名トヲ書載シ正副二通ヲ差出スヘシ然ル後造幣役員ハ
其地金ヲ秤量シ右ニ通ニ更ニ其量目ヲ明記シ各通ノ末葉ニ
役員手記ヲ施シ一通ヲ納者ニ交付シ一通ヲ造幣局ニ留存ス
第四款 地金ノ本位價格ニ付分析長ノ報告アラハ三日前ヲ納者

8

ニ通報シ三日間別ニ申出ルコトナキニ於テハ其地金一ト改鑄ノ
手續ニ着手スルモノナリ但シ造幣主長ハ渾ニ本位價格ヲ以
テ地金ヲ領收スルモノナリ

第五款 右分析報告ニ因テ地金ノ質脆弱ナルカ或ハ換利胃母
(元素)ヲ含包セルモノト認ムルニ於テハ地金ハ本人ニ還付
スルモノトス若シ又地金全量ニ含包セル本位價格ノ量目其
總量目ヨリ減少シテ本位精分ヲ造リ難キモノハ千八百七十
年制定造幣規則第八條ニ從テ造幣主長ハ之ヲ分析又ハ改鑄
スルヲ拒ムノ權利アルモノ也

第六款 納者ノ分析者ヨリ買得タル分析證明セル本位價格ニリ
減少セルモノハ造幣局分析役之ヲ認メテ納者ニ報告スルキ
若シ異議スル所アラハ更ニ其地金ヲ造幣局協議分析役ニ付
シ其次ヲ取ルコトトス

第七款

地金

貨幣成り了セ、納者ニ通報シ前算ノ如ク其位量

目ヲ含包マシ金貨ヲ還付ス但シ改鑄費用ハ拂ニ及ハサル

千八百七十一年四月四日

造幣局副長兼造幣出納長

シムダブリユフレントル

〔ロ〕附録第二

自千八百十六年至同四十七年貨幣鑄造表

自千八百四十六年至同五十五年貨幣鑄造表

自千八百五十四年至同六十二年貨幣鑄造表

自千八百五十八年至同六十七年貨幣鑄造表

表中記スル所 lbs ハ秤量磅 美 ハ價值ノ磅 S ハシ

リング d ハヤンス 08 ハオンス dut ハヤンニウヱ井

トヤ ハゲレイン ton ハ噸 cut ハハンドレットウヱ井也

前表續 銅鑄幣價格通表 (二) 附錄第三

Table with columns for Year (年度), Weight (秤量), Price (價格), and Total (價格通計). Rows list years from 1876 to 1946 with associated data points and unit symbols like 'Long' and 'Short'.

一千九百四十八年八月二日

造幣副長 長官の官署に於て此ノ表ニシテ

前表續キ
銀貨幣鑄造表(米)

半「フリリン」							「フリリン」																		
秤量							秤量																		
枚數							枚數																		
價格							價格																		
年度							年度																		
自十八百四十六年 至十八百五十二年	十八百五十四年	十八百五十五年	十八百五十六年	十八百五十七年	十八百五十八年	十八百五十九年	十八百六十年	十八百六十一年	十八百六十二年	十八百六十三年	十八百六十四年	十八百六十五年	十八百六十六年	十八百六十七年	十八百六十八年	十八百六十九年	十八百七十年	合計	「フリリン」						
																			五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	五七、〇〇〇、〇〇〇
<p>「フリリン」: 秤量 (lbs. oz. dwt. gr.), 枚數, 價格, 秤量 (lbs. oz. dwt. gr.), 枚數, 價格</p>																									
<p>「フリリン」: 秤量 (lbs. oz. dwt. gr.), 枚數, 價格, 秤量 (lbs. oz. dwt. gr.), 枚數, 價格</p>																									

前表續
銅貨鑄造表

年度	半「ペンス」	
	秤量	枚數
六百四十六年	九兩八錢四分	八六〇一六
全 四十七年	八兩八錢四分	七五二六四
全 四十八年	三兩八錢四分	一五八〇
全 四十九年	五兩八錢四分	三二五六
全 五十年
全 五十一年
全 五十二年	四兩八錢四分	二五〇四
全 五十三年	五兩八錢四分	六三七〇五六
全 五十四年	四兩八錢四分	一三二七四
全 五十五年	四兩八錢四分	四八〇
合計	三兩八錢四分	二七八七四五六
自八百四十六年 至一千八百五十二年	三兩八錢四分	二七八七四五六
全 五十三年	九兩八錢四分	二七八七四五六
全 五十四年	三兩八錢四分	一五八〇
全 五十五年	四兩八錢四分	六三七〇五六
合計	三兩八錢四分	二七八七四五六
六百四十六年	四兩八錢四分	八六〇一六
全 四十七年	四兩八錢四分	七五二六四
全 四十八年	三兩八錢四分	一五八〇
全 四十九年	五兩八錢四分	三二五六
全 五十年
全 五十一年
全 五十一年	四兩八錢四分	二五〇四
全 五十二年	五兩八錢四分	六三七〇五六
全 五十三年	四兩八錢四分	一三二七四
全 五十四年	五兩八錢四分	四八〇
全 五十五年	四兩八錢四分	六三七〇五六
合計	三兩八錢四分	二七八七四五六
自八百四十六年 至一千八百五十二年	三兩八錢四分	二七八七四五六
全 五十三年	九兩八錢四分	二七八七四五六
全 五十四年	三兩八錢四分	一五八〇
全 五十五年	四兩八錢四分	六三七〇五六
合計	三兩八錢四分	二七八七四五六

(*) 表ニ掲グ銀貨鑄造高、内磨耗、銀貨改鑄、為ニ元價ヲ以テ英國銀行ヨリ買收セ
ルモノアリ即チ左ノ如シ

年度	秤量	買收價格	改鑄ニ付減耗高
千八百四十六年	五九五〇、八 ^五 。	一八〇〇、〇〇	二四五九、一〇、四
月	四五三四七、七五。	一四五〇、〇〇	二〇二九、七、五
四十八年	一七五四三、二〇。	五七五〇、〇〇	六五〇四、五、八
月	四四三四五、〇五。	一三五〇、〇〇	一三一五〇、二、八
四十九年	四九六五九、三五。	一五〇〇、〇〇	一三四三九、四、九
月	三三四二、五五。	一〇〇〇〇、〇〇	二六〇三、五、一
五十一年	一五三九七、八〇。	四八一〇、〇〇	五八七五、七、一
月	六九八九三、一五。	二〇〇〇、〇〇	二七七九、七、八
五十二年	五〇八六九、六〇。	一六〇〇、〇〇	二〇一〇、一七、二
月	一九九五四、九〇。	六三〇〇、〇〇	八二二九、三、一
五十四年	二〇三〇、二五、二三	六二五五、〇〇	六七九六、二、〇
合計			

千八百五十六年七月十四日

造幣首長「トマス・グラハム」

自千八百五十四年一月一日
至同 六十二年五月三十一日
金貨幣鑄造表

年度	半ソウレツ		半ソウレツ	
	秤量	枚數	秤量	枚數
千八百五十四年	九二八九・四七八	三五六六一	三五六九六・一	表 九二八九・四七八
全 五十五年	二九七五・七二八	八四八四八二	八四八四二・九四	一四八八六・七一〇
全 五十六年	一三四三六・八〇四	四八六一六〇	四八六一五・九四	三五一九・九
全 五十七年	一五四六六・九〇	四四九七四八	四四五七四・四〇	九三五一・八七六
全 五十八年	一〇六六八・七八	八〇三三四	八〇三三四・四一	一〇九八六・六二八
全 五十九年	三九四六・二五六	一五四七六〇三	一五四七六〇三・一八	二九三三八八
全 六十年	六六四四・八一四	二五五九五八	二五五九五八・〇	一三三二五・〇
全 六十一年	一五九一八・七七四	七六四七三六	七六四七三六・九六	一三〇八六七
全 六十二年	二〇二五六・二六	七六六四一三	七六六四一三・五六
全 六十三年	一五〇八三・九二四	五九二一六六九	五九二一六六九・四四	一三七一五七四
合計	三三三三五・三七二	四七六九六四	四七六九六四・〇二	二〇六九七〇

價格通計

價格

枚數

秤量

價格

枚數

秤量

年度

20

年度	「クラン」		半「クラン」	
	秤量枚數價格	秤量枚數價格	秤量枚數價格	秤量枚數價格
全 五十五年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 五十六年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 五十七年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 五十八年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 五十九年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 六十年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 六十一年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 六十二年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 六十三年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 六十四年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
全 六十五年	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00
合計	5,760.00	10,000.00	10,000.00	10,000.00

前表續* 銀貨幣鑄造表 (*)

前表續キ
銅貨幣鑄造表

年度	「トランス」			半「トランス」		
	秤量	枚數	價格	秤量	枚數	價格
十八百五十四年	125,000.00 <small>tons cut gr lbs oz</small>	6,720,000	280,000.00 <small>d</small>	114,000.00 <small>tons cut gr lbs oz</small>	12,354,008	57,737.12 <small>d</small>
同 五十五年	98,200.00	5,273,856	216,748.00	69,633,335	7,455,837	15,532,190.5
同 五十六年	22,100.00	1,222,288	505,400.00	18,100.00	1,942,080	4,046,000
同 五十七年	14,000.00	752,640	336,000.00	11,000.00	1,182,720	2,464,000
同 五十八年	29,000.00	1,559,040	649,600.00	23,000.00	2,472,960	5,152,000
同 五十九年	20,000.00	1,075,200	448,000.00	12,000.00	1,290,240	2,688,000
同 六十年	0,000.00	32,256	134,800.00			
同 六十一年	47,000.00	5,532,480	2,060,000.00	37,000.00	6,630,400	13,813,680
同 六十二年	33,900.00	3,646,288	1,583,000.00	30,000.00	4,218,400	12,246,320
同 六十三年	47,000.00	5,532,480	2,060,000.00	37,000.00	6,630,400	13,813,680
合計	146,500.00	36,752,220	149,688,000.00	107,600.00	12,445,365	34,273,186.8

年度	秤量	枚數	價格	秤量	枚數	價格
十八百五十四年	30,500.00 <small>tons cut gr lbs oz</small>	6,500,496	677,600.00 <small>d</small>	1,200.00 <small>tons cut gr lbs oz</small>	6,737,600	352,160.00 <small>d</small>
同 五十五年	16,000.00	3,440,640	358,400.00	1,200.00	6,139,200	476,000.00
同 五十六年	8,000.00	1,703,320	179,200.00	2,200.00	2,392,000	776,000.00
同 五十七年	5,000.00	1,075,200	112,000.00	2,200.00	2,392,000	776,000.00
同 五十八年	8,000.00	1,703,320	179,200.00	2,200.00	2,392,000	776,000.00
同 五十九年	6,000.00	1,290,240	134,400.00	2,200.00	2,392,000	776,000.00
同 六十年	0,000.00	32,256	134,800.00			
同 六十一年	24,000.00	2,667,200	966,320.00	2,200.00	2,392,000	776,000.00
同 六十二年	40,000.00	4,336,000	1,493,368.00			
同 六十三年	4,000.00	149,368	148,800.00			
合計	149,900.00	33,041,520	148,800,000.00	3,400.00	11,921,600	828,160.00

* 青銅貨ノ鑄造高也

價格通計	買收價格
60,865,800 <small>d</small>	32,192,000 <small>d</small>
41,061,710 <small>d</small>	32,013,400 <small>d</small>
21,418,800	3,422,700
670,000	3,492,000
16,400,000	6,668,160
852,000	3,962,900
334,800	915,200
378,560,000	
273,328,334	
352,800,000	
151,648,000	
95,065,220	
合計	466,653,750

千八百五十四年	千八百五十五年	千八百五十六年	千八百五十七年	千八百五十八年	千八百五十九年	千八百六十年	千八百六十一年	千八百六十二年	千八百六十三年	千八百六十四年	千八百六十五年	千八百六十六年	千八百六十七年	千八百六十八年	千八百六十九年	千八百七十年
秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量	秤量
外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻	外燻
買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收	買收

(*)表ニ掲ケル銀貨鑄造ノ内磨耗ノ銀貨改鑄ノ為ニ元價ヲ以テ英國銀行ヨリ買收セルモノナリ即チ左ノ如シ

年度	秤量	買收價格	造幣價格	改鑄ノ減耗高
千八百五十四年	五〇八六九	一六〇〇〇	一三九八九	二〇一〇
全	一九九五九四	六三〇〇〇	五四八八〇	八一九
五十五年	三三四二〇〇	七四〇〇〇	六四三〇五	九六四
全	二九二八二五	九二五六八〇	八〇五二七	二〇四〇
五十六年	二二七七一	六七五〇〇	五八四九	九〇〇
全	一八八七三九	六〇〇〇〇	五八四九	九〇〇
五十七年	三三九〇二	一三三〇〇	九八四二	一四五六
全	三〇八七三	七七六〇〇	八四九四	一四五六
五十八年	四二五五九	一三三〇〇	一七〇三七	一七九六
全	三二四六七四	一〇二八〇〇	八九二八	一三五一
五十九年	八三八	〇	〇	〇
全	二五九九五〇	八三四六八〇	七三三七七	一〇七六八〇
合計				

千八百五十四年ヨリ六十二年迄造幣ノ為ニ買收セル銀塊「カンス」ニ付年平均買收價格左ノ如シ

年度	秤量	買收價格
千八百五十四年	六十一ペンス	四分三
全	六十一ペンス	八分三
五十五年	六十一ペンス	二分一
全	六十一ペンス	二分一
五十六年	六十一ペンス	八分七
全	六十一ペンス	四分三
五十七年	六十一ペンス	二分一
全	六十一ペンス	二分一
五十八年	六十一ペンス	二分一
全	六十一ペンス	二分一
五十九年	六十一ペンス	二分一
全	六十一ペンス	二分一
六十年	六十一ペンス	二分一
全	六十一ペンス	二分一
六十二年	六十一ペンス	二分一
全	六十一ペンス	二分一
合計	六十一ペンス	二分一

千八百六十四年七月二十日
造幣首長「トーマスグラハム」

(*)表二部、銀貨製造、内鑄、精、銀貨、收、總、部、の、概、況

20

自千八百五十八年一月一日 至同 六十七年七月三十一日 金貨鑄造表

年度	「ソウエー」		半「ソウエー」	
	秤量	枚數	秤量	枚數
千八百五十八年	二〇六八、〇七八	八〇三二三四	一〇九六、六三	八五五七八
五十九年	三六四八、二五六	一四七六〇三	一〇九六、三〇	六四四、五五
六十年	六六四、八四	五五五九八	九七五、九	九三二、〇八
六十一年	一九一、九	七四七、六二四七三六	九六四、三	八九〇、九
六十二年	二〇二、五	二六七八三六四一三	七、八五、三、一、六
六十三年	一五〇、八三	九二四、五九二一六六九	六、八五、八、一、〇
六十四年	三三四、〇	三七四、八六、九三、二	九、五、五、九、七、六
六十五年	三七五、九	九九九、一四、五〇、二三八	九、七、三、七、六、〇
六十六年	一三九、三	四四、〇四、四七二八八	一、〇、六、六、六、四、六
六十七年	四、九、三、九、七、二、一
合計	一〇六、七、三、三、九	四〇、四、三、四、九	一七、三、七、六、八、六	三、三、三、八、四、三

價格通計

價格

枚數

秤量

價格

枚數

秤量

年度

28

前表續

銀貨幣鑄造表(米)

年度	三ペンス			ニペンス			一ペンス		
	秤量	枚數	價格	秤量	枚數	價格	秤量	枚數	價格
大正八年	五七五〇〇	一四五九八	二〇四二	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正九年	五九〇〇〇	一五四三八	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十一年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十二年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十三年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十四年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十五年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十六年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
大正十七年	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇
合計	五七五〇〇	一四〇八四	二〇四四	四〇〇〇	四七五三九	二〇三九	三〇〇〇	七九〇	三〇〇〇

附 大正十六年以降銀貨の「一」更ニ鑄造セズ又半「一」より大正十五年以降鑄造セズ

年度
 寸法
 重量
 数量
 価格
 計
 年
 度

前表續 + 銅貨鑄造表

年度	「ペンス」		半「ペン」		價格通計	實價
	秤量 <small>元 low cut 0.92 gr. W</small>	枚數	秤量 <small>元 low cut 0.92 gr. W</small>	枚數		
千八百五十八年	一五九九 <small>0.00 64.00</small>	六四九〇	一七三三 <small>0.00 64.00</small>	五五九六	三九九二〇	六六六〇〇
千八百五十九年	一七五二〇 <small>0.00 48.00</small>	四八〇〇	二九二四〇 <small>0.00 16.00</small>	二六八〇	一五〇〇〇	三九九六〇
全	三三二六 <small>0.00 32.00</small>	一四八〇	六三三四〇 <small>0.00 16.00</small>	三八三六八	三三八〇	九六三二一
金五十年	三九〇〇 <small>0.00 24.00</small>	五八九六	二一八四〇 <small>0.00 16.00</small>	三三三六八	八二六〇	五七九八二
金六十一年	五五五四〇 <small>0.00 24.00</small>	二〇五六〇	三二七二〇 <small>0.00 16.00</small>	二七六三二	四〇〇〇〇	三三三二九〇
金六十一年	六六六七二〇 <small>0.00 24.00</small>	一六九八〇	五七四八〇 <small>0.00 16.00</small>	三三六三二	四〇〇〇〇	三四三〇〇
金六十二年	三四〇〇〇 <small>0.00 24.00</small>	一四三六〇	三三七六〇 <small>0.00 16.00</small>	二〇三八〇	七〇〇〇	九六三〇〇
金六十二年	六〇六六〇 <small>0.00 24.00</small>	五八四〇〇	八〇六四〇 <small>0.00 16.00</small>	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三七四〇〇
金六十二年	九九九三六〇 <small>0.00 24.00</small>	四一六四〇	二五〇八〇 <small>0.00 16.00</small>	五三六三二	一〇〇〇〇	三三三三六〇
金六十二年	五八三五二〇 <small>0.00 24.00</small>	二八四八〇	三三六三四〇 <small>0.00 16.00</small>	四〇〇〇〇	五〇七六〇	三三三四六八
金六十二年	五九八三五〇 <small>0.00 24.00</small>	三三三六八	四〇七六〇 <small>0.00 16.00</small>	三〇〇〇〇	五五八四〇〇	三六三三六〇
合計	四三三三〇 <small>0.00 24.00</small>	二〇三二〇	五九八七二〇 <small>0.00 16.00</small>	三三三六八	三三四〇〇	四九六三二四七

附 十八百五十七年以降半「ペン」の更ニ鑄造セズ

(*) 表ニ掲クル銀貨鑄造ノ内磨耗ノ銀貨改鑄ノ為ニ
 先價ヲ以テ英國銀行ヨリ買收セルモノナリ昂チ尤
 ノ如シ

年 度	秤量	買收價格	造幣價格「トリス」ニ付 五シリング「トリス」ノ割ラ	改鑄ニ付減耗高
千八百五十八年	二二七二一、六五五	六七五〇〇、〇〇〇	五八四七五、一四、九	九〇〇四、五、一一
全	一八七三九、九一五	六〇〇〇〇、〇〇〇	五一九〇三、九、六	八〇九六、一〇、六
全	三五七九〇、五三八	一一三〇〇〇、〇〇〇	九八四二三、三、九	一四五七六、一六、三
全	三〇八七三、〇七七	九七六〇〇、〇〇〇	八四四四〇、一、〇	一二六五九、一八、二
全	四二五五九、六八二	一三五〇〇〇、〇〇〇	一一七〇三七、一四、三	一七九六二、五、九
全	三二四六七、八三八	一〇二八〇〇、〇〇〇	八九二八五、一一、五	一三五一四、八、七
全	三三八三三、一五二	一二三三〇〇、〇〇〇	一〇六八〇、一四、一〇	一六六六三、五、二
全	二九二四九、九八三	九三〇〇〇、〇〇〇	八〇四三六、一三、四	一二五三三、六、八
全	三六一二八、一八七	一一五〇〇〇、〇〇〇	九九三五二、一、〇	一五六四七、一、九
全	三七六一四、九二七	一二〇〇〇〇、〇〇〇	一〇三四三、九、六	一六五六〇、一、四
合計	三二六八〇、九五四	一〇二七四〇〇、〇〇〇	八九〇二〇、一〇、〇	一三七二七、一〇、〇

千八百五十八年ヨリ六十七年迄造幣ノ為ニ買收セル銀
 塊「トリス」ニ付年平均買收價格尤ノ如シ

千八百五十八年	千八百五十九年	千八百六十年	千八百六十一年	千八百六十二年	千八百六十三年	千八百六十四年	千八百六十五年	千八百六十六年	千八百六十七年
六十一「トリス」 二分一	六十一「トリス」 ス「八分七	六十一「トリス」 ス「四分三	六十一「トリス」 ス「二分一	全	全	六十一「トリス」 ス「四分一	六十一「トリス」 ス「四分一	六十一「トリス」 ス「四分一	六十一「トリス」 ス「四分三

千八百六十八年六月二十二日

造幣首長「トリス」ス、グラハム

全	六千四百半	三十八万三千	一三三〇〇〇	一〇四八〇六	一〇一六六三
全	六千三百半	三十四万六千	一〇二八〇〇〇	八六二八	一三五一四
全	六千二百半	四十五万	一三三〇〇〇	一三〇三九	一三二七二
全	六千一百半	三〇八千	一三三〇〇〇	八四四〇	一三二六六
全	六千半	三十五万	一三三〇〇〇	八四四二	一三二五七
全	五千五百半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	五千半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	四千五百半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	四千半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	三千五百半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	三千半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	二千五百半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	二千半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	一千五百半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	一千半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	五百半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七
全	半	一八万	一三三〇〇〇	一三二五	一三二五七

英幣兌換率英國銀行買入率
 (英) 泰二銀... 雜費... 內德... 雜費... 雜費... 雜費... 雜費...

3

(八)

拜啓英國駐劄ノ米公使タル我輩ニ對スル疑問ヲ辱フレ即チ應
 答スルニ當リ先ツ衆說百端ニシテ其正確ヲ得ル頗ル難シ是故
 ニ余ハ單ニモルトン、ロー、ス社中銀行者ノ忠告ニ從ヒ倫敦所任
 ノ「カ」ル子スト、セイ「ド」ナル著名ノ理財學者ニ依テ以テ諸成跡ノ
 確實ナルモノヲ彙集セシメ別紙ノ如ク逐條應答ヲ為ス且ツ右
 「セイ」ド氏ノ書中間々鄙見ヲ挿註シ聊カ裨補ノ微意ヲ示ス而シ
 テ銀價墮落ノ件ニ付テ嚮ニ余ハ議院委員ノ報告ヲ進呈セリ
 又茲ニ「セイ」ド氏編輯ノ一小冊子ヲ封緘シ以テ造幣手數料ノ事
 ヲ開申シ併セテ技術社中纂述ノ雜誌篇ヲ送致スルハ印度ト題
 セル科目中一ノ貨幣論ヲ載タルヲ以テナリ貴下之ヲ恕諒セヨ
 恐惶謹言

千八百七十六年十二月二十三日在倫敦

大藏省

米國公使館

エトワルツ、ヒーアレポント

米國貨幣委員貴下

30

〔三〕右封入セイド氏應答書

第一疑問ノ答

金銀造幣價格ノ事

金銀造幣上ノ價格ハ、八百十六年已降變更ナシ即チ金一オン
 ス、トロイ^(二)百十六^(三)カラット^(四)即チ純金ヲ以テ三磅十七^(五)レルリ
 十^(六)ヤンスニ分一ヲ鑄造シ又銀一オンストロイ^(七)ニ百二十^(八)ベ
 純金九百二十^(九)ヲ以テ五^(一〇)レルリング六^(一一)ヤンスヲ鑄造ス是故ニ金
 五^(一二)三^(一三)ナリ
 銀價格比較ハ純金一ニ付純銀十四ト十分ノ九^(一四)三^(一五)四^(一六)八^(一七)ニ
 當ルナリ

銀行金相場ノ事

凡ソ何人タリモ金地金ヲ以テ造幣局ニ輸入シテ改鑄シ得ルノ
 權利アリト雖モ寧ロ之ヲ英國銀行ニ沽却スルヲ便益トナス如
 何トナレハ該銀行ハ千八百四十四年ノ銀行條例ヲ遵守シテ適

大歳省

當ノ金地金ナレハ一オンズニ付三磅十七シリング九バンス
ノ相場ニテ常ニ買収スレハナリ且ツ該銀行ニ於テ復之ヲ轉賣
スルキハ或ハ三磅十七シリング十バンスニ分一ノ相場ヲ以
テシ又地金ノ精製稍々緻密ニシルモノハ近頃一オンズニ付三
磅十七シリング十一バンスノ相場ニテ轉賣スルコトアリ
凡ソ右條例ニ因レハ英國銀行ハ其出金部ニ貯藏セル金ノ四分
一ヨリ多カラサル銀ヲ貯藏スルヲ得ルモノトスト雖モ現今ハ
自己ノ會計上ニ於テハ更ニ銀ヲ取引スルコトナシ

金銀相場ノ事

金相場ハ常ニ英國銀行ノ賣買相場ニ依テ低昂ス即チ一オンズ
ニ付七十七シリング九バンス乃至十一バンスノ間ニ在リ要
スルニ英國金價ノ相場ハ英國銀行ノ相場ト云フモ可ナリ然レ
銀相場ノ浮沈低昂ハ更ニ定規トスヘキモノナシ

第二疑問ノ答

倫敦ニ於テ往年ヨリ銀貨ノ浮沈ヲ算スレハ左ノ表ノ如シ

年度

「ガンス」付銀價ノ高低

平均

自十八百三十七年 至三十六年

自六〇、二釐一 至五八、四分五

五九、八分五

十八百三十七年

六〇、八分三 至五九

五九、二分一

十八百三十八年

六〇、八分三

六〇、二分一

十八百三十九年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十一年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十二年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十三年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十四年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十五年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十六年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十七年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十八年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百四十九年

六〇、四分一

六〇、四分一

十八百五十年

六〇、四分一

六〇、四分一

年度

一「オニス」付銀價ノ高低

平均

年度	一「オニス」付銀價ノ高低	平均
自千八百三十七年 至千八百三十六年	自六〇、二分一 至五八、四分五	五九、八分五
千八百三十七年	六〇、八分三	五九、十六分九
千八百三十八年	五九、八分三	五九、二分一
千八百三十九年	六〇、八分五	六〇、八分三
千八百四十年	六〇、八分一	六〇、八分三
千八百四十一年	六〇、八分三	六〇、十六分一
千八百四十二年	五九、四分一	五九、十六分七
千八百四十三年	五九、四分一	五九、十六分三
千八百四十四年	五九、四分一	五九、二分一
千八百四十五年	五八、八分七	五九、四分一
千八百四十六年	五九、	五九、十六分五
千八百四十七年	六〇、八分三	五九、十六分十一
千八百四十八年	五九、八分一	五九、二分一
千八百四十九年	六〇、八分五	五九、四分三
千八百五十年	五九、二分一	六〇、十六分一
千八百五十一年	六〇、八分五	六一、二分一
千八百五十二年	六〇、八分七	六一、二分一
千八百五十三年	六〇、八分七	六一、二分一
千八百五十四年	六〇、八分七	六一、二分一
千八百五十五年	六〇、八分五	六一、十六分五
千八百五十六年	六〇、二分一	六一、四分三
千八百五十七年	六二、四分一	六一、十六分五
千八百五十八年	六〇、四分三	六一、十六分一
千八百五十九年	六二、四分三	六一、十六分三
千八百六十年	六二、四分三	六一、十六分三
千八百六十一年	六〇、四分一	六一、十六分三
千八百六十二年	六一、	六一、十六分七
千八百六十三年	六一、	六一、八分七
千八百六十四年	六〇、八分七	六一、四分三
千八百六十五年	六〇、二分一	六一、八分七
千八百六十六年	六二、四分一	六一、八分七
千八百六十七年	六二、四分一	六一、八分七
千八百六十八年	六〇、八分三	六〇、八分三
千八百六十九年	六〇、八分三	六〇、八分七
千八百七十年	六〇、四分一	六〇、八分五
千八百七十一年	六〇、四分一	六一、
千八百七十二年	六〇、八分一	六一、四分一
千八百七十三年	五九、八分七	五八、
千八百七十四年	五九、四分一	五九、四分一
千八百七十五年	五七、二分一	五七、二分一

千八百七十六年間ノ相場ハ 五四、八分七、五六、八分一、五二、五分一、五〇、四分七、五二、五分一、五八等ナリ

千八百五十二年	千八百五十一年	千八百四十二年	千八百四十一年	千八百四十年	千八百三十九年	千八百三十八年	千八百三十七年	千八百三十六年	千八百三十五年	千八百三十四年	千八百三十三年	千八百三十二年	千八百三十一年	千八百三十年	千八百二十九年	千八百二十八年	千八百二十七年	千八百二十六年	千八百二十五年	
...
...

〔イ〕疑問ノ答

左ニ掲クル所ハ純金銀價格比較ノ變遷ニ因テ倫敦ノ銀相場ニ
影響ヲ及セシ所以ヲ示スモノニシテ上ノ銀價相場表ノ参照ト
スルニ足ルモナリ

金銀價格比較	一オンスニ付	分數ハ十六分ノ割ヲ以テ最近ノ 數ヲ算スルナリ
一ト十五	六十二、八六六三六	即チ六十二、八分七
一ト十五、四分一	六十一、八三五七七	日 六十一、十六分十三
一ト十五、二分一	五十九、八三八四二	日 五十九、八分七
一ト十五、四分三	五十九、八七二三七	日 五十九、十六分十五
一ト十六	五十八、九三七二二	日 五十八、
一ト十六、二分一	五十八、〇三〇四九	日 五十七、四分一
一ト十七	五十七、一五一一三	日 五十五、十六分七
一ト十七	五十五、四七〇三二	

同 四十二年	同 四十三年	同 四十四年	同 四十五年	同 四十六年	同 四十七年	同 四十八年	同 四十九年	同 五十年	同 五十一年	同 五十二年	同 五十三年	同 五十四年	同 五十五年
一、八分五	一、八分五	一、十六分五	一、十六分九	一、二分一	一、八分五	一、十六分五	一、十六分一	〇、四分三	〇、四分一	〇、十六分五	〇、十六分一	〇、十六分十一	〇、二分一
二、四分三	二、八分一	二、二分一	二、二分一	一、八分七	二、八分一	一、四分一	一、四分一	〇、二分一	〇、二分一	〇、二分一	〇、十六分十一	〇、十六分十一	〇、二分一
〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七	〇、八分七

36

同 四十二年	同 四十一年	同 四十年	同 三十九年	同 三十八年	千八百三十七年	年度	平均相場ニ比シ其差違ヲ示サハ左ノ如シ	一、オンスニ付六十ペンス十六分十三ノ價格ハ歐洲各國相尋テ採用セル所ノ一ト十五半ノ割合ナリ今此價格ニ準據シテ毎年	一ト十八	一ト十九	一ト二十
一、八分三	〇、八分三	〇、十六分七	〇、十六分一	一、十六分五	ペンス 一、四分一	不足	五十二、三八八六三	四十九、六三一三四	四十七、一四九七七
二、四分一	一、四分一	〇、四分三	〇、四分三	二、四分一	二、	百分ノ割ニ付不足	日 五十二、八分三	日 四十九、八分五	日 四十七、四分一
...	同 過

同 五十六年	0.2分1	0.8分7
同 五十七年	0.16分5	1.2分1
同 五十八年	0.2分1	0.8分6
同 五十九年	1.4分1	2.8分3
同 六十年	0.8分7	1.8分3
同 六十一年	0.8分5	0.8分7
同 六十二年	0.8分5	0.8分7
同 六十三年	0.16分9	1.
同 六十四年	0.16分9	1.
同 六十五年	0.4分1	0.8分7
同 六十六年	0.16分5	0.2分1
同 六十七年	0.4分1	0.8分3
同 六十八年	0.16分5	0.2分1

同 六十九年	0.8分3	0.8分5
同 七十年	0.4分1	0.8分3
同 七十一年	0.16分5	0.2分1
同 七十二年	0.2分1	0.8分7
同 七十三年	1.16分9	2.8分5
同 七十四年	2.2分1	4.6分1
同 七十五年	3.16分5	6.8分3
同 七十六年	自2.2分1至1.3	自4.2分1至2.2分1

右表ハ金銀比較價格ノ違差ヲ採テ揭示ス故ニ尋常書式ノ如ク
其比較ヲ揭示セルモノヨリ一目シテ其高低如何ヲ知ルヘシ尚
下院特撰委員ノ銀價墮落ノ報告附録二十九頁「バ」ヨリ三
「バ」ニ「追」ノ「バ」ンリ「オ」ートル「フ」キール「ト」氏ノ「徴照書」ヲ見ルベシ

第一第二疑問共「イ」疑問ニ付約要

凡ソ倫敦銀市場ノ如キハ常ニ銀ノ需要(國造幣又ハ工藝技甚)夕沛ナルカ故ニ幾ント其賣買ナキカ如シ故ニ此地ノ銀相場ハ概子他邦ノ相場ニ隨テ常ニ高低スル而已既ニ千八百七十二(獨ニ其他諸國ニ於テ未タ)迄ハ銀貨幣ヲ廢止セサル前(歐羅巴、印度支那地方ニ於テ銀ノ)需要熾シニシテ且ツ其浮沈低昂ハ職トシテ貿易ノ權衡或ハ競争等ノ事情ニ因リシカ終ニ此等ノ原因ヨリ四轉錯綜シテ意外ノ影響ヲ曠生シ嘗テ輿論ハ銀價確固ニシテ墮落スルヲナキヲ保証セリト雖モ徒ニ架空ノ言論ニ屬シ愈々其墮落甚シキニ及ハリ

今若シ米國貨幣委員ノ目的ヲシテ市場ニ於ケル銀量ノ需供ノ多寡ヲ以テ其平均相場如何ヲ推算セント欲スルモノナラシノハ余試ニ實際ヲ説テ其不可ヲ明示セン蓋シ此ノ如クセハ其平均相場如何ハ推算スルヲ得ルト雖モ悉ク其實ヲ得ズ却テ倫敦

相場ノ常ニ其實價ヲ示サスシテ徒ニ虚影タルノ實事ヲ顯ハスニ外ナラス故ニ我輩ハ敢テ其虚ヲ説クヲ欲セサルナリ抑モ現時倫敦ヨリ歐洲各地印度支那等ニ輸送スル銀價ハ當時ノ高況ト船賃并ニ保険料トニ因テ大ニ高低ノ別アリ時昔(千八百二十年)云フナリ(歐洲ニ輸セル地金ニ付此等ノ費用ヲ算スルニ大凡一)ニ歩ナリシカ近時ハ低下シテ百ニ付十六分一乃至八分一ニ及ヘリ又印度支那等ニ輸送スル費用ハ往年ハ六歩乃至四歩ノ間ニ在リシカ今時ハ僅ニ一二歩ニ止マル而已是素ヨリ銀相場上多少ノ影響アリシ所以ニシテ且ツ昔時ニ比スレハ今時ノ輸送極テ迅速ナルカ為ニ隨テ資本閑遊ノ時間少キハ亦論ヲ待サレナリ是故ニ今若シ今時ノ高況ト大相場トヲシテ果シテ五十(前トアルト無ラシムルモ往年ハ一オンスニ付五十九バニ)ニシテ能ク之ヲ輸出セスト雖モ今時ハ一オンスニ付六十バニ

スニレテ之ヲ輸出スルヲ得然レ千八百二十年ヨリ千八百五
十年迄ノ銀價ヲ以テ此年以後ニ比スルハ稍々其騰貴
ル而已

以上所掲ノ實事ハ貨幣委員ノ緊要トスル所ナルヘシ如何トナ
レハ米國ニ於テ金銀比較一ト十六若クハ十六四一分ノ割合
改正セント欲スルノ意匠ヲ示サハ倫敦相場ニ影響ヲ生シ或ハ
銀價ノ墮落ヲ支柱スルノ勢アレハナリ但シ千八百七十二年迄
ハ金銀比較一ト十五半ナレ凡常ニ銀價騰貴ノ色アリ

却說古亞米利加弗四百十二^レゲレイン半ノ銀價ハ一ト十六ノ割
合ナリ然リ而シテ四百二十^レゲレインノ貿易銀價モ亦之ヲ一ト
十六ノ割合ニ準定セルカ故ニ其間不當アルハ論ヲ待ス今亦其
舊銀價ノ割合ニ從テ四百^レゲレイン^九公^九差^九ヲ^九除^九キ^九三^九百^九九^九十^九ノ銀價
ヲ算スルハ一ト十五半ニ當ルヘシ我輩ハ取テ右等ノ坵格ニ

付是非スルヲ欲セス唯其實際ヲ指示セル而已

疑問ノ答

大英國ニ於テ最モ巨額ノ仕拂方ニ用ユルヲ得ルモノハ金貨ナ
リ又銀貨ハ一ロノ拂方ニ於テ二磅迄ノ適法トス而シテ
千八百十六年以降右規定ニ付更ニ其沿革ナレ

八 疑問ノ答

大英國内現在流通金貨幣總額ハ一億ノ五百萬磅ナリ又銀貨幣
ハ一千六百萬乃至七百萬ノ間ニ在リ此他英國銀行ノ出金部ニ
貯藏セル金塊外國金貨及ヒソ^レンベ^レン^レ金貨ノ三者アリ今該銀
行毎週報告^十八^月十^七日^六年^ニ據^レハ^共通^計二^千八^百十^九萬^九
千^百四^十磅^ナリトス以上掲クル所ヲ以テ大英國内金銀現在
ヲ概テスルハ左ノ如シ

磅二八〇〇〇〇〇〇

英國銀行貯藏高

一〇五、〇〇〇、〇〇〇

金貨流通現高

一六、五〇〇、〇〇〇

銀貨流通現高

一四九、五〇〇、〇〇〇

金銀現在總額

但シ英國銀行貯蔵ノ金塊ハ常ニ大ニ増減アリ又千八百四十四年ニ調査セル金貨幣流通高ハ六千萬磅ナリ而シテ銀及ヒ銅貨幣ニ至テハ金貨鑄造ノ多寡ニ準シテ之ヲ鑄造ス可キモノトス今下院委員ノ報告(附録第一葉)ニ據レハ銀貨流通現高ヲ一千九百五十萬磅トス是蓋シ旅客ノ提帶シテ輸出ニ属スル高其他諸塵耗高ヲ精算扣除セサル所ノ算ナルヘシ

三 疑問ノ卷

時計指環等身飾ニ属スル者并ニ板金類ニテ大英國內ニ現存スル金銀ノ算數ハ頗ル難駁ニシテ容易ニ共精算ヲ得ル能ハスト雖氏嚮ニ銀價ノ事ニ付セイド氏ヨリ下院委員ニ進呈セル証明

4

書并ニ技術社中ニ示セル詳細書ニ因ルルハ稍々其正確ヲ得ルモノノ如シ但シ右詳細書ハ千八百七十六年三月十七日ノ技術雜誌ニ載ス

又金匠會社(Goldsmiths)ノ報告ニ據レハ公証ヲ名印シタル内國用ノ板金ノ價值年平均費耗大凡五萬磅ナリトス但シ時計其他裝飾等ニ属スル諸雜品ニ用ユル板金ハ公証ヲ名印セス故ニ此等ノ額幾何ナルカ其大約ノ數ヲモ得テ算スベカラスト雖氏右報告ニ因リ内國用金量ノ統計四千萬乃至六千萬磅ナリトセハ此内直チニ貨幣ニ改鑄スルヲ得ルモノ即チ時計ノ金皮金鏈金裝飾金器具其他諸品ノ概算ハ二千五百萬乃至三千萬磅ナルヘシ而シテ又鍍金ノ身飾用ニ費耗スル高并ニ畫架表章勲功賞牌等ニ用ユルモノ大ニ居多ナリ而シテ貨幣面ノ磨耗高ハ極メテ些少ナリト雖氏時計指環其他裝飾ニ属スル物品ノ磨耗高ハ極メテ大ナリ

又各國ニ於テ技工ノ為ニ費耗フル所ノ高ヲ概算スルニ一千二
三百萬磅ニ過ス此内全ク磨耗スルモノハ其半額ニ出デス
銀板其他銀具ニシテ直チニ銀貨ニ改鑄スルヲ得ルモノハ全
リ居多ナリ今大英國内一切ノ銀器具類ノ概算ヲ見ルニ五千萬
乃至五千二百萬磅ナリトス而シテ此ノ如キハ稍々過多ナルモ
ノ、如シト雖氏此内諸器具類ノ銀類筆函等ニ費耗スル高
ヲ減省セハ左迄巨大ニアラサルヘシ今其公証ヲ捺印セル銀器
具類現存高（食ヒ井、高燭臺、盆
其他鍍銀ノ器類ヲ云）ノ報告ヲ見ルニ十八億乃至十八
億七千五百五十二萬オンスナリ之ヲ金貨ニ算スレバ一千三百
萬磅ニ當ルナリ而シテ近代漸クガハニ鍍銀ニ行ハル、ニ隨
テ從來ノ銀鍍ノ製品減少セリト云フ
又十八百年代ハ銀器具類ノ製工盛ニ行ハレタルモノ、如シ如
何トナレハ當時製工品ノ半ハ鎔解セラレタルモノト假定スル

モ今日英國ノ貴族輩カ有スル許多ノ銀板ト公証無名若クハ輸
入ニ依ル諸品トヲ推算スレハ三千五百萬乃至四千萬ノ間ニ在
テ現ニ其實價ヲ存在スレハナリ又銀貨ノ流用ニ依テ其銀量ノ
磨耗高ヲ算スレハ年大凡一千五百萬磅ナリ又銀錢ノ為ニ費消ス
ル高ハ年大凡二十五萬磅ナリ
附言 本條ノ趣旨ニ付衆說區々ニシテ我輩未タ其正確ヲ得ル
能ハス
ヒールアレボント誌

〔木〕疑問ノ答

英國内銀行紙幣發行制限左ノ如シ但シ政府發行ノ紙幣及ヒ証
券類ハ茲ニ算入セス
一千五百萬磅
英國銀行發行高
三百八十萬七千九百九拾貳磅
英蘭土并ウェールズニ於テ
百十六箇私立銀行發行高

二百六十萬二千九百九十三磅

五十四箇ノ合本銀行發行高

并新格蘭土ニ於ケル十一箇

ノ銀行發行高

六百三十五萬四千四百九十四磅

愛蘭土ニ於ケル六箇ノ銀行

發行高

合計三千〇五十六萬四千七百五十磅

但シ各銀行發行高ノ詳細ヲ要セハ議院報告ニ倫敦ウォルト
ルロウ、エンド、ソンス社刊行ノ千八百七十六年間ノ銀行年表
ニ就テ見ルヘシ

抑モ英國銀行ノ發行高ニ斯ク制限アリト雖モ元ニ二千八百萬
磅ノ地金ヲ收備シ且ツ其發行制限高一千五百萬磅ノ準備ヲ別
ニ確哉セルヲ以テ四千三百萬磅迄ヲ發行スルヲ得ルモノトス
是ヲ以テ千八百七十六年十二月十三日ニ其發行高二千七百萬

磅ニシテ尚ホ準備一千六百萬磅アリ而シテ其他英國ノ私立合
本銀行ニ至テハ假令準備金ヲ増加スルトアルモ右制限ノ額ヨ
リ増發スルヲ禁ス然レズ格蘭土及ヒ愛蘭土ニ於ケル銀行ニ至
テハ然ラスレテ準備ヲ増サハ尚ホ發行スルヲ得ルモノナリ又
英國銀行ノ發行スル紙幣ニ限リ英蘭土并ニウェールズニ於テ適
法通貨トシテ流用スルヲ得ルト雖モ其他銀行ヨリ發行ノ紙幣
ハ假令其銀行所在ノ地方ニ於テモ之ヲ適法通貨トシテ流用ス
ルヲ得ス然レズ英蘭土地方ノ銀行紙幣ハ常ニ金貨ト同一ノ價格
ヲ以テ交換スルヲ得ルモノナリ

一、疑問金銀每年產出高ニ付答

大英國内金ノ產出至少ナルヲ以テ幾ント之ヲ精製分析スル
ヲ要サ、ルカ如シ故ニ又產出高報告書ノ如キモノナシ然レ
ニ至テハ英國產出ノ鉛及ヒ其他礦物ヨリ分析シテ得ルモノ年

十四萬乃至十六萬磅ノ間ニ在リ（物統計書ヲ見ルハ）而シテ外
國輸入ノ鑛物ヨリ分析シテ得ル所ノ金量モ亦些少ナルヲ
別ニ報告書ナシ今ソルハクトルハ、氏ノ算ニ據レハ從來
牙等ヨリ輸入ノ鉛ニ就分析シ得タル所ノ銀ハ一百萬磅ナリト
ス（下院委員ノ報告ヲ見ル）而シテ鎔解者及ヒ分析者ヨリ別ニ報告スル所
ナシト雖モ今中外ヨリ得ル所ヲ合算スレハ毎年平均所得ノ高
八百萬磅ニ下ラサルヘシ

第三疑問ノ答

抑モ近時銀價ノ墜落ハ米國ヨリ寄送高ノ増加シタル所以ニ非
ス又印度ノ需要減縮シタルニ因ルニモ非ス又ロ銀ノ倫敦市場
ヲ壓倒シタル所以ニモ非ス如何トナレハ米獨二國ノ寄送高ヲ
合算スルモ往年ニ比スレハ尚ホ幾層ノ減少ヲ見レハナリ然リ
而シテ其墜落ノ原由ハ獨逸ニ於テ銀貨幣ヲ廢止セントスルノ

政策ト及ヒ自餘諸國ヲシテ不得止之ヲ捍防セント欲シタルニ
對セザル可ラス

附言 銀價墜落ノ原由如何ニ付衆論未タ定ラス議院委員ノ如
キハ米國產出高ノ増殖シタルヲ以テ其大原因ト為ス

ピリアレポート誌

歐羅巴ニ於テ銀需要ハ千八百七十二年迄ハ萬國銀山產出高ノ
半ニ出テタリト雖モ此以降ハ獨逸ノ政策ト各國ノ防禦策トニ
因テ噸ニ之ヲ需要ノ道ヲ塞閉セルモノ、如シ

附言 本條ノ意見ハ銀調査委員ニ差出セル証跡書ニ掲クル所
ト大ニ齟齬ス

ピリアレポート誌

第四疑問ノ答

銀價墜落ノ原由ハ亦主トシテ諸國向來ノ貨幣法如何ニ因
已既ニ今日迄ノ各國ノ措置ヲ見ルニ漸ク銀貨ヲ廢止シテ金貨

大
小

ノミヲ貨幣本位ニ採用スルニ及ヘリ思フニ嘗テ輿論ノ云ヘル
所ハ魯西亜伊太利埃斯多亞等ノ紙幣專用ノ國ニ於テ銀價
落ヲ利シテ大ニ之ヲ買收スルナラントセシモ徒ニ架空ノ命
ニ屬シ假令此等ノ國ニ於テ紙幣ノ償却ニ着手スルヲアラシム
ルモ豈ニ特更ニ下落ノ銀ヲ用ヒ却テ吹毛求疵ノ禍ヲ招クヲ為
サンヤ唯其銀ヲ要スル所以ハ兩本位ヲ採用スルト否トニ因ル
而已是埃魯諸國ノ諸理財大家カ明白ニ看認フル所ナリ然リ而
シテ之ヲ採用スルノ可否ニ至テハ萬國ノ公議輿論ニ因ル可キ
ト雖氏埃魯等ノ國ニ於テ主トシテ金貨ヲ取ル所以ノモノハ亦
勢ノ止ムヲ得サルニ出タルナリ

今ヤ既ニ歐洲ニ於テ銀ノ需要廢絶シタルヲ以テ彼ノ羅典同盟
國カ佛蘭西伊太利瑞
西希臘白耳義其次會ニ於テ銀貨ヲ廢停スルニ決スルカ
或ハ其締約ヲ解クカ或ハ舊法ニ循由シテ對格本位法ヲ維持ス

ルカ預メ其結果如何ヲ知ル可ラスト雖氏今若シ銀價ノ墜落愈
々甚シキニ至ルカ或ハ埃魯等ノ國ニ於テ愈々金貨單位法ヲ施
行擴充スルニ於テハ終ニ同盟諸國カ銀ヲ賣出スルカ若クハ銀
貨ヲ廢止セサルヲ得サルニ至ルヘシ試ニ看ヨテ院委員ノ報告
ニ獨逸國ノ銀貨廢停ノ政策ヲシテ愈々施行スル所アラシメハ
銀價ノ下落ハ底止スル所ヲ知ラスト明説セルヲ

輓近稍々銀價騰貴ノ色アルハ十一月十五日
付五十八日ニハ相場ナリニ米國
其他諸國ヨリ寄送ノ銀ノ些少ナルト印度ノ相場遽然沸騰セル
トニ因ルナリ乃チ曩者印度支那地方ヨリ大ニ物品ヲ輸出シタ
ルハ銀價ノ下落ニ根柢シタル所以ニシテ當時其物品ノ價稍々
騰貴セリ今若シ歐洲ニ輸送物品ノ價甚々廉賤ナルニ非サレバ
自カヲ需要ノ道ヲ閉塞スル況景ナリトセハ之カ為ニ銀相場
好景ヲ來シ復々物價隨テ沸騰シ愈々需要ヲ減縮スルニ似タリ

七
六
省

ト雖氏物品ノ輸送過度ナレハ之ヲ及動力ヲ生シ復シ銀價ヲ墮
落セシムルニ至ルハ必然ニシテ既ニ英國ニ輸送ノ物品ニトテ
モ其價稍々低下セルヲ見ル是其反動ヲ惹起セル所以ナリ又印
度支那ニ於ケル將來ノ銀ノ要求ハ其價ニ永遠ノ低下ヲ生シ以
テ金銀價ノ平均ヲ得ルニアテサレハ終ニ亦其需ナカルヘシ蓋
シ永遠低下ノ割合ハ一割若クハ二割若クハ五割ナルヘシ若シ
夫各國舉テ銀貨廢止ノ策ヲ施行シ強テ其功績ヲ奏セシメハ或
ハ其平均ヲ得テ銀價此低度ニ至ルヘシ今此論點ヨリ銀價墮落
ノ原因如何ヲ視ルニ假令數月前ニ銀價騰貴シ一ウンスニ付四
十七バンスヨリ五十八バンスニ至リシト雖氏向ホ其原ヲ絶ツ
ト能ハサルカ如シ況シヤ獨逸「カ」ンデ子ビヤ其他諸國ニ於テ
陸續廢止ノ策ヲ施行スルニ於テオヤ故ニ今墮落ノ根原ヲ絶ン
ト要セハ之ニ頷頑シテ愈々銀ヲ用ユルノ國アルニ非サレハ到

底其實效ヲ見サルヘシ
然ルニ今ヤ米國ニ兩本位ヲ採用セントスルノ議アルニ際シ為
ニ銀價騰貴ノ色ヲ顯セリ故ニ先ツ米政府果シテ之ヲ決行セハ
隨テ金銀價平均ノ道ヲ得ヘシ而シテ羅典同盟諸國ト共ニ之ヲ
維持セシムルニ足ルヤ否ヤハ異日ヲ待テ徵スヘシ蓋シ英國獨
シ其他諸國ニ於テ兩本位ヲ取ラサル間ハ終始金銀ノ權衡攪亂
ノ弊ヲ去ルト能ハサルカ如シ是故ニ銀價墮落ノ原由ノ永遠存
在スルト否トハ第一ニハ其供需如何ニ因リ第二ニハ諸國ニ於
テ銀貨ヲ廢止セントスルカ否ラサルカニ因ルナリ
附言 卓越ナル銀行者ハ皆其墮落ノ原因ヲ永遠ノモノトス
第五疑問ノ答
金銀價格比較ノ變易ハ大英國ノ輸出上ニ些少ノ影響ヲ及ホセ
シ而已又千八百十六年ニ金貨本位ヲ定メシ以降金銀價格比較

ピールアレボント誌

上ニ變易ヲ生セサリシ所以ニ因テ聊カ其流用ノ間弊害ヲ生シタルヲナシ宜式往々近時ノ學士輩カ獨逸等ノ國ニ於テ金本位ヲ採用シ或ハ米國ニ於テ之ヲ採用セントスルハ只管英國ノ聲ニ倣ハントスルニ外ナラスト喋々セルヲ然リト雖モ卓見老成ノ士ニ至テハ大ニ此說ト異ナリ乃チ曰ク今日英國ノ金本位法ニ弊害ヲ生セサリシ所以ハ適々他邦ニ於テ之ヲ採用セスレテ獨リ銀ヲ本位ニ取テ恰モ英國ト相反對セルニ因ルナリ是寔ニ英國ニ金銀ノ權衡ヲ攪亂セサリシ所以ナリト又英國輸入ニ至テハ漸ク増加シテ其物品ヲ買得スルカハ英國人民中外國ノ公債証券其他種々負債ヲ請求スルノ証書類ヲ有スルモノ夥多アルニ因ルナリ試ニ其所有ノ資財ヲ概算スレハ大約十二億磅ナルヲ以テ其利子ノミヲ算スルモ年六千乃至七千磅ノ收穫アリ之ニ及シテ輸出ハ千八百七十二年以降大ニ減

少セリ即チ左ノ如シ

年	英國製品輸出	外國製品輸出	輸入總額
千八百五十四年	九七、〇〇〇、〇〇〇	一八、〇〇〇、〇〇〇	一五二、〇〇〇、〇〇〇
全 五十五年	九六、〇〇〇、〇〇〇	二一、〇〇〇、〇〇〇	一四三、〇〇〇、〇〇〇
全 五十六年	一一五、〇〇〇、〇〇〇	二二、〇〇〇、〇〇〇	一七二、〇〇〇、〇〇〇
全 五十七年	一二二、〇〇〇、〇〇〇	二四、〇〇〇、〇〇〇	一八七、〇〇〇、〇〇〇
全 五十八年	一六六、〇〇〇、〇〇〇	二二、〇〇〇、〇〇〇	一九四、〇〇〇、〇〇〇
全 五十九年	一三〇、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	一七九、〇〇〇、〇〇〇
全 六十年	一三五、〇〇〇、〇〇〇	二八、〇〇〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇、〇〇〇
全 六十一年	一二五、〇〇〇、〇〇〇	三四、〇〇〇、〇〇〇	二一七、〇〇〇、〇〇〇
全 六十二年	一二三、〇〇〇、〇〇〇	四二、〇〇〇、〇〇〇	二二五、〇〇〇、〇〇〇
全 六十三年	一四六、〇〇〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇、〇〇〇	二四八、〇〇〇、〇〇〇
全 六十四年	一六〇、〇〇〇、〇〇〇	五二、〇〇〇、〇〇〇	二七四、〇〇〇、〇〇〇

全 六十一年	全 六十二年	全 七十三年	全 七十四年	全 七十五年	全 七十六年	附千八百七十六年十一月、下旬	八千五百萬磅ノ輸
一六五、〇〇〇、〇〇〇	一八九、〇〇〇、〇〇〇	二五五、〇〇〇、〇〇〇	二三九、〇〇〇、〇〇〇	二二五、〇〇〇、〇〇〇	二〇二、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
五三、〇〇〇、〇〇〇	四七、〇〇〇、〇〇〇	五八、〇〇〇、〇〇〇	五八、〇〇〇、〇〇〇	五二、〇〇〇、〇〇〇	五二、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
二七、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	三七一、〇〇〇、〇〇〇	三七〇、〇〇〇、〇〇〇	三七三、〇〇〇、〇〇〇	三七三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
二九五、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
二七五、〇〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇、〇〇〇	二七五、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇
二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二九四、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇	二、一八一、〇〇〇、〇〇〇

出アリ

右輸出ニ付千八百七十二年ニ億五千六百萬磅ナリシカ七十
 六年ニ至テ二億零二百萬磅ニ減縮セルハ(減少高五千四百萬磅ナリ)種々ノ
 原由アリテ然ルナリ乃チ其原由ノ一ハ資財ノ足ラサルヲ以テ
 強テ貿易ヲ擴張シ之カ為ニ五十年來厄相尋テ生レ其宿弊ヲ
 受タルニ在リ又其一ハ千八百七十一年ノ字佛戰爭是ナリ此ニ
 者ハ其原由ノ大ナルモノニシテ尚ホ此他許多ノ原由アリ但シ
 今ヲ去ルニ十五年字佛戰爭ヨリ尚ホ幾層ノ慘毒ナル戰爭アリ
 レト雖モ此際ニ於テハ却テ其輸出ノ増加セルヲ見ル而シテ本
 年迄斯ノ輸出ノ減少アリト雖モ明年ヨリハ復テ増加スルニ至
 ルヘシ

柳モ英國輸出ノ將ニ漸ク萎縮セル時ハ適々獨逸ノ銀貨廢止ノ
 策ヲ盛行セル時ナリト雖モ既ニ千八百六十八年ニ(字佛戰爭)故

大 長 省

47

人ウオロウスキ「氏」著書ニ萬國貿易ノ衰頹ヲ前言セリ而シテ
余モ亦此時ニ於テ同説ナリ然ルニ今日ニ至テ英國輸出ノ萎蕪
ヒルヲ獨逸諸國ニ於テ銀貨廢止ノ策ヲ施行シタルノ結果ト看
做スモノアルハ其當ヲ得サルカ如シ蓋シ英國製造ノ衰ハタル
ヤ今日ノ事ニ非スレテ曾テ商業ノ衰凋ニ因テ漸ク不振ニ赴キ
終ニ大ニ其弊ヲ醸生スルニ及ヒシナリ而シテ輓近東洋地方ノ
貿易稍々熾ナルモノ、如シト雖氏未タ必ス之ヲ以テ毀盛確乎
ノ貿易ト認ム可ラス唯我輩ハ向來如何ニ徵セン而已
嘗テ政府及ヒ商家（印度地方ノ貿易）カ銀價下落ノ為ニ大損ヲ受
ケタリト雖氏今日ニ至ル迄何等ノ措置ヲ施サリシヲ見レハ
假令目下銀價稍々騰貴ノ色アルモ其困弊甚シキニ至ラサレハ
政府ニ於テハ亦何等防禦ノ策モ施サレハ蓋シ政府ノ特ニ
委員ヲ置テ銀價墮落ノ事ヲ探究セシムルハ其墮落ヲ將來ニ防

カント欲スルニ在リ

附言 本條疑問ニ付商家ニ於テ未タ何等ノ意見アルヲ聞知セ
ス
ビーアレポント誌

第六疑問ノ答

英國造幣局ニ於テハ金貨鑄造ニ付其手数料ヲ要セスト雖氏其
實手數ニ適當スルモノアリ即チ輸納地金ノ質及ヒ量ニ付定則
アリテ且ツ之カ改鑄ヲ依頼セシニハ成規ノ如ク其手續ヲ經ル
ニ非サレハ輸納スルヲ得サルカ故ニ不得止納者ヲシテ其改鑄
ヲ遲滯セシメサルヲ得ス如何トナレハ先ツ其輸納ノ後先ニ隨
テ遂次改鑄ヲ施スヲ以テ若シ該局ニ於テ果シテ間斷ナク英國
銀行ノ為ニ金銀銅貨ヲ鑄造スルトセハ自然此他ノ改鑄ニ於テ
ハ數週間若クハ數月ノ遲延ナキヲ得ス是ヲ以テ納者ハ直ニ該
局ニ依頼スルヲ為サスレテ先ツ其地金ヲ英國銀行ニ活却ス（其

ル「オ」ンズ九「付」三「磅」七「シ」柳モ斯ノ如クセハ該銀行ニ於テハ常
 ニ地金ヲ輸納スルニ送付ノ適度ヲ得ルヲ以テ造幣局ニ於テモ
 亦工業ノ繁閑且シキヲ得ルナリ然リ而シテ近時米國ニ於テ大
 ニ新造スル「ダブル」イ「オ」グ「ル」貨幣ノ歐洲ニ歸聚シテ鑄解ニ係ル
 モノ幾百萬ヲ以テ數フ又既ニ該地ニ於テ地金ニ製シ（委替純金
九百ノ割）
 「ニアラ」以テ歐洲ニ達到スルモノアリ故ニ英國造幣局ニ於テモ
 鑄解ノ費用ヲ省キ兼テ又米國ノ納者ヲシテ其費用ヲ減省セシ
 ムル所アルヘシ

凡ソ英國造幣局ニ於テ領收規定ノ價格ハ一「オ」ンスニ付三「磅」十
 七「シ」ル「リ」ン「グ」十「バ」ンス半ニシテ英國銀行買上ノ定價ハ三「磅」十
 七「シ」ル「リ」ン「グ」九「バ」ンスナルヲ以テ其違差一「バ」ンス半ハ實ハ造
 幣手数料ニ當ルナリ然レ此他尚ホ英國銀行ニ於テ試金ノ為ニ
 千ニ付六分四ノ手数料ヲ要シ且ツ該銀行ノ規定ヲ以テ一切ノ

地金ハ皆凡ソ二百「オ」ンス毎ノ地金ニ改造スルヲ要シ之カ秤量
 ニ至テハ佛法ノ如ク緻密ナラス試ニ佛國ノ試金法ヲ見ルニ極
 精一萬分一ニ沙ルト雖レ英國ノ如キハ僅ニ三千分一ニ止マ
 ル而已且ツ鑄解地金ノ秤量ニ至テハ英國ノ如キ定則ナクシテ
 唯納者ノ意ニ任ス此他尚ホ英佛ノ間ニ異ナル所アル今二百「オ」
 ンスノ地金ヲ以テ兩國ノ比較ヲ算セハ左ノ如シ

英國銀行

一「オ」ンスニ付一「バ」ンス半即チ千ニ付	一、六〇五
同試金用三千分一	〇、一五〇
同鑄解費	〇、二四五
同秤器上ノ減耗	〇、〇六二
合計	二、三二七

此他ニ純金鑄解ノ費耗少クモ〇、五〇〇アルベシ

佛國銀行

一キログラムニ付六フランクセノ手数料即チ千ニ付	二、一六一
同試金用一萬分ノ一	〇、〇五〇
同試金費用	〇、〇七七
同秤器上ノ減耗	〇、〇〇八
合計	二、二九六

英國ニ於テハ造幣手数料ヲ要セスト雖モ佛國ハ然ラスシテ公然之ヲ課收ス然ルニ上ニ所掲ノ如ク却テ英國ノ費用居多ナルヲ見ルヘシ且ツ數年前英國試金法ノ如キハ唯一「カレット」純金ノ八分一ニ止マリ一「ミリ」ニ付二分一ノ手数料ヲ要セリ此時ニ方テ世論頗ル之ヲ難シ為ニ稍々其法ヲ改正シ今日ニ至テハ英國銀行ニ沽却スルモ或ハ直チニ造幣局ニ輸入スルモ妨ケナシトス

又銀地金領收ノ價格ハ一「オンス」ニ付六十六「バンス」ニシテ且ツ之ヲ改鑄スルト否トハ全ク政府ノ便宜ニ因ルモノトス故ニ人民ハ改鑄ノ為ニ銀地金ヲ常ニ輸納スルヲ得ス又英國銀行ニ於テモ常ニ銀地金ヲ買收スルヲ為スレテ先ツ大藏省ニ稟議ノ上許可ヲ得造幣局ノ為ニ買得スルヲ成規トス而シテ銀價ハ一「オンス」ニ付六十一若クハ六十若クハ五十五「バンス」ノ相場ニシテ造幣局領收ノ定價ハ六十六「バンス」ナルヲ以テ大ニ其利贏アルヲ見ルナリ

磨耗銀貨ノ改鑄ハ年平均凡ソ一萬五千磅ナリ又金貨ノベレ一「シ」ノ質造往々之アリト雖モ發露極テ容易ナリ嘗テ白金ヲ以テ質造セル金貨アリト雖モ僅少ニシテ其患甚シキニ至ラス又曠昔銀貨質造ノ如キハ醜形粗拙ナリト雖モ漸ク銀價低下セハ巧精ヲ加フルモ尚ホ三割ニ歩ノ利贏アルモノ、如シ未タ幸ニ之

大藏省

ヲ見スト雖其果シテ實造アラハ其弊害恐ルヘシ

第七疑問ノ答

金銀塊并ニ貨幣輸出入ノ詳細ハ英國稅関報告及ヒ議院委員報告書ニ就テ見ルヘシ

第八疑問ノ答

金銀山開掘ニ付禁制ノ法ナシ但シ前款ニ述フル如ク銀ニ至テハ諸鑛物ヲ分析シテ得ル而已

第九疑問ノ答

貨幣上ノ得失ヲ詳論シテ餘蘊莫ラシムルハ素ヨリ一朝一夕ノ能スル所ニ非ス思フニ當該委員諸君ハ善本ニ乏シトセサルヘシ

以上列記スル所ニ間々鄙見ヲ挿註シ以テ貴下ニ奉呈ス幸ニ取捨スル所アレ勿々謹白

51

千八百七十六年十二月二十三日在倫敦

エドワルドズビーアレポイント

大蔵省

布哇國ノ部

〔一〕 公使^ロール^ル区ヨリ國務卿宛ノ書

〔二〕 千八百七十二年制定貨幣條例

〔三〕 千八百七十六年改正貨幣條例

和
田
信
郎
譯

今

大
藏
省

大
藏
省

拜啓本月二十一日ニ九月十八日附貴下ノ四章ヲ落掌ス謹テ拜
 讀スルニ八月十五日ヲ以テ政府特ニ貨幣委員ヲ置レシトノ決
 議アリ而シテ四章ニ封入セシ該委員ノ疑問書モ亦領取ス今將
 サニ我輩此ノ疑問ニ應答セントス此國曾テ金銀ノ産出アルナ
 キヲ以テ礦山規則ノ如キモノナシ又精製分折若クハ造幣ノ事
 ヲ所管スル造幣局ノ如キモノモナシ
 嘗テ千八百七十二年以前ニ係ル此國流用ノ通幣ハ即チ諸國數
 種ノ金銀貨ニシテ其價格ノ如キハ政府ノ制度以テ之ヲ定メ更
 ニ本位貨幣ナルモノナシ然レニ同年七月二十九日ヲ以テ始テ
 貨幣條例ヲ制定シ米國銀貨ヲ本位貨幣トナシ以テ諸般ノ仕拂
 ニ使用スルヲ得ルモノトセリ然レ元來此國ノ通商貿易ニ便
 ナルモノハ米國金貨ニ若クモノナキノ故ヲ以テ自カラ通幣中

大藏省

主領ナル貨幣トナリシカ適々加福尼亞州ニ銀貨并ニ銀塊ノ墮落ヲ醸生シ之カ為メ金貨漸ク去上ニ消絶シ随テ米國銀貨ト佛國五フランノ銀貨トヲ現出スルニ至レリ蓋シ此國理財ノ情弊及ヒ貿易上ノ事ハ恰モ好ク加福尼亞州ト氣脈相通シ常ニ牽聯密着セルカ故ニ貨幣法ノ如キモ亦須ラク該州ニ摹擬セサレヲ得サル所ニシテ是千八百七十六年ノ貨幣條例改正ノ由テ起リシ所以ナリ

右改正條例ハ同年九月十九日ヲ以テ議定シ千八百七十七年三月一日ヨリ履行スベキモノトス此ノ條例ニ擬レハ米國金貨ヲ本位トナシ以テ公私諸般ノ仕掛ニ使用スルヲ得レナリ今我輩新旧條例共ニ謄録シテ貴下ノ高覽ニ供ス

又此國大藏省ニ於テハ數年采正金受預ノ方法ヲ設ケテ以テ預金証券ヲ発行セリ乃チ其ノ証券書体ノ一例ヲ掲クレバ尤ノ如

54

シ

預リ証券	八百七十一号	一十弗也	右金額ハ「ビシヨブ」社中ヨリ本日布哇大藏省ニ領収セル事實証ナリ尤モ其ノ請求アルニ於テハ何時ニテモ還付スル者也	千八百八十三年八月十四日	布哇「ボノル」府大藏省	大藏卿「ロベルト、ステリング」	出納頭「チャールズ、エ、ケストル」	附裏面ニ「ビシヨブ」社中ト記載セリ
------	--------	------	--	--------------	-------------	-----------------	-------------------	-------------------

右証券ニ十弗二十弗五十弗百弗五百及七百十弗ノ種類アリ而
メ此等ハ皆ナ適法通貨ニアラザレ凡所有主ノ随意ニ正金ト交
換スレヲ得ルヲ以テ此國一箇簡便ノ通貨ニシテ且ツ海関稅其
ノ他諸公納向ニ使用スレヲ得ルカ故ニ世上一般之ヲ用ユル所
トナレリ而メ今日ニ至ルマデハ之レカ交換ハ皆ナ銀貨ヲ以テ
セリト魚氏今ヤ國幣充満ノ状アルカ故ニ金貨ヲ以テスルナル
可シ

却說我合衆政府ノ現金仕拂法ニ付茲ニ菲言陳述シテ聊カ國幣
ヲ鞏固ニスルノ一端ヲ稟白セントス其ノ一ニ曰ク今ノ大藏省
預金証券ヲ適法通貨ニ爲シテ先ツ諸般ノ仕掛ニ使用スルヲ得
セシメ且ツ是ヲ以テ海関稅ニモ供用スルヲ得セシムベキ一其
ノ二ニ曰ク一切ノ資財被托者（公當廳若クハ遺言裁判廳ノ保舉
ヲ得ルカ或ハ和續人等ノ認諾ヲ
得テ一人若クハ公衆ノ爲ニ種々
ノ財本ヲ付托セラレタル人ナリ）ヲシテ其ノ被托ノ財ヲ大藏省

56

ニ寄取スレヲ得セシメ該省ヨリハ請求直拂ノ約ヲ以テ年四歩
有利ノ記名証券ヲ交付スルノ法ヲ開設スベシ英國ノ如キハ往
昔ヨリ此類ノ資財ヲ政府特ニ預リテ年三歩有利ノ証券ヲ突出
スルノ法アリ而メ今此ノ如クセハ先ツ其ノ被托者ヲシテ自カ
ラ管守スルノ責任ヲ輕クシ供セテ國財ヲ裨補スル所アリト云
ハン而已勿々頌首再拜

一千八百七十六年十月二十七日在布哇鳴「ホノル」

米國公使館

「ヘンリー・ア・ピールズ」謹言

華聖頌府

國爵卿「ハミルトン」フキニ閣下

百千八百七十二年制定貨幣條例

布哇島ノ王立法會議員ト協議、上カ、條款ヲ議定スルモノナ

第一款 此王國ノ通幣ハ米國合衆政府鑄造ノ百セントノ價格ヲ有スレ一弗、五十セントノ價格ヲ有スル半、二十五セントノ價格ヲ有スレ一分、十セントノ價格ヲ有スレ一分ノ半、即チハ、五セントノ價格ヲ有スレ一分ノ半、ハ、イハタルベシ、而シテ半弗即チハ、五十セントノ銀貨ヲ以テ本位貨幣ト定メ、王國內公認一切ノ仕拂ニ使用スレテ得シモノナリ、此他々國ノ正當ナル金銀貨幣モ亦公私一切ノ仕拂ニ使用スレテ得ヘシ、且シ其ノ價格ハ國王内閣ト協議ノ上官令日誌ヲ以テ大藏卿ヨリ布告スレ所ニ従フベシ

56

金貨ヲ付與シ然レ後々裁判廳ニ此旨ヲ告訴願申シ其費用ハ被告之ヲ償辦スベシ

第二款 二十五セント以下ノ貨幣ハ凡テ十弗以下ノ仕拂ニ用エベシ故ニ此以上ノ仕拂ニ於テハ何人タリモ拒ムノ權利アルモノトス、又一口ノ仕拂十弗以上百弗以下ナレバ、毎百弗ニ十五弗迄ヲ用エルヲ得ベシ、又百弗以上千弗以下ナレバ、毎百弗ニ十弗迄ヲ用エルヲ得ベシ、千弗以上ハ、渾テ毎百弗ニ五弗迄ヲ用エルヲ得ベシ

第三款 凡テ此條例ニ抵觸スレ所ノ後前ノ法則ハ廢止スレモノナリ

紀元千八百七十二年七月二十九日
國王「ガミミアミア、アー」

〔八〕 千八百七十六年改正貨幣條例

布哇島ノ王立法會議員ト協議ノ上左ノ條款ヲ議定スルモノナ

第一款 紀元千八百七十六年三月一日以降ハ米國合衆政府

金貨ヲ以テ本位貨幣ト定ム故ニ其名額、準依シテ此王国内
公私一切ノ仕掛ニ使用スルヲ得ベシ

第二款 同國銀貨ハ渾テ五十弗以下ノ仕掛ニ使用スヘシ而テ
五十弗以上百弗迄ノ仕掛ニ於テハ其ノ内五十弗迄ハ右銀貨

ヲ用ユルヲ得テ其殘額ハ第一款ニ定メタル金貨タルベシ
第三款 千弗以下百弗以上ノ仕掛ニ於テハ其内二百五厘ハ銀

貨七分五厘ハ金貨ヲ以テ供辨スベシ
第四款 千弗以上ノ仕掛ニ於テハ其内千弗迄ハ上款ニ從フベ

シ而テ其ノ殘額ノ内一分五厘ハ銀貨ヲ以テシ尚ホ其ノ殘餘

57

ハ金貨タルベシ

第五款 米國合衆國ノ貨幣ハ勿論此他外國ノ正當ナル金銀貨
モ亦公私一切ノ仕掛ニ使用スルヲ得ヘシ但シ其ノ價格ハ國

王内閣ト協議ノ上大藏卿ヨリ布告スル所ニ從フベシ
第六款 二十五セント以下ノ銀貨ハ渾テ十弗以下ノ仕掛ニ使

用スベシ又前款ニ從テ凡テ銀貨ヲ以テ仕掛ヲ為スベキ場合
ナレハ二十五セント以下ノ貨幣ハ每百弗二十五弗ノ割合ヲ

以テ亦使用スルヲ得ベシ
第七款 天皇陛下ノ締約セザレ國ヨリ此三國ニ輸入スル銀貨

幣ハ渾テ一割ノ從價稅ヲ課収ス但シ右稅則制定ノ為メ内閣
議員會議ノ上其ノ過半ノ認可ヲ得テ天皇陛下ヨリ此旨ヲ公

告スルニ非サレハ履行セサルナリ
第八款 此ノ條例制定ノ日ヨリ輸入稅ハ渾テ米國ノ金貨若ク

大藏省

ハ此ノ價值ニ相應スレ貨幣ヲ以テ納シムルヲ大藏卿ノ職務ト為ス

第九款 千八百七十七年三月一日以降政府発行一切ノ証券、

利子一証券ニ付キ五弗以上ノ高ノモノナレハ米國金貨若

ハ此ノ價值ニ相當スレ貨幣ヲ以テ付與スヘシ又五弗以下ナレハ同國銀貨ヲ以テスベシ

第十款 千八百七十七年三月一日以降ハ千八百七十二年七月

二十九日ノ會議ニ制定セル所ノ第二十七章ニ於ケル貨幣條

例ハ全ク廢止スベシ又此條例ト抵觸スル所ノ従前ノ法則ハ渾テ亦廢止スレモノナリ

千八百七十六年九月十九日

國王「カラカウアー」

58

荷蘭國ノ部

〔イ〕 荷蘭國外務卿ヨリ同國在番米公使「ホル子」宛ノ書

〔ロ〕 貨幣委員ノ疑問(内部分ニ係ル)ニ應答シテ荷蘭造幣局首長

ヨリ同國大藏卿宛ノ書

〔ハ〕 貨幣鑄造統計表

〔三〕 千八百七十五年制定造幣規則ニ從テ鑄造セル金貨幣
幣統計

〔ホ〕 諸規則及ヒ布告類件名

〔ニ〕 千八百七十五年六月六日假定造幣規則

〔ト〕 千八百七十五年七月二十六日改定造幣規則

〔チ〕 公使「ホル子」ヨリ國務卿宛ノ書

〔リ〕 同上

〔一〕

拜啓十月十日、尊意ヲ奉承シテ我「エトレフ」所造幣局首長、
 書翰及ヒ此他教書ヲ封入シ以テ貴下ニ奉呈ス兩ノ此等、書類
 ハ皆ナ我大藏卿ヨリ余ニ寄送セル所ニシテ專ラ荷蘭王国ニ於
 ケル貨幣鑄造ノ事ヲ閑隙セルノミニシテ我カ海外屬地ノ貨幣
 如何ニ付一モ記載スレ所ナシ貴下若シ之カ報道ヲ要セハ余速
 ニ海外居留ノ同僚ニ通牒シテ寄送セシメント欲ス但言フ屬地
 ニ於ケル貨幣ノ基本ナルモノモ亦本邦ノ本位銀貨ヲ用ユルノ
 ニ貴下之ヲ諒セヨ勿々不備頓首再拜

千八百七十六年十一月十七日在「ハーグ」

荷蘭外務卿「ビーテ、デ、ウ、カ、ル、レ、ボ、イ、ス」謹白

在雷米公使「ボレ子」貴下

大藏省

〔ロ〕 荷蘭「エトレフ」上府造幣局首長ヨリ同國大藏卿へ、上申書
ニシテ即チ氷公使へ寄送ニ係ルモノ
謹拝啓本月六日附、貴翰ニ封入ノ氷國貨幣委員、疑問ニド
大略ノ應答ヲ述ヘン曰ク「エトレフ」上造幣局ニ金地金ヲ輸入シ
テ其ノ貨幣渡日限ハ凡ソ六七間ヲ費シ又銀貨ナレバ八日間ヲ
費スベシ而シテ其ノ地金輸入ノ實際ヲ見ルニ荷蘭銀行ヲ除クノ
外曾テ百万「フロリン」ノ巨額ヲ送付セルモノナシ蓋シ該銀行
ニ於テ斯ク巨額ヲ輸入スレト以テモハ其ノ地金ヲ金庫ニ確
藏スルモ將タ造幣局ニ送致スレモ聊カ其ノ間ニ換得スレトナ
キヲ以テナリ而シテ地金改鑄ノ依頼頻リニシテ且ツ其ノ輸入高
皆ナ寡少ナル時ノ事情ヲ茲ニ觀述スルハ却テ省觀ノ煩勞ヲ招
クニ似タレハ敢テ亦誓セズ

又造幣局休業ノ際遽ニ依頼ヲ受クレニ於テハ装置就業ノ次序
ヲ整齊シタル後着手スレヲ以テ自カラ時日・稽滞ナキヲ得ス
又輸納地金僅少ノ際ニ於テ往々其ノ貨幣渡期日ヲ延引セシム
ル「ア」リト虽氏定式ノ就業ヲ以テセバ凡ソ一周間鑄造スレ所
ハ金貨二百五十万「フロリン」銀貨百万「フロリン」合計三百五
十万「フロリン」トス勿々不整頓首再拜
ニ八百七十六年十一月十日

「エトレフ」上造幣局
「ル」ツ、リカマ「謹」白

大藏卿「ア」スキベ、「ウ」エ、「エ」閣下

至同 千八百七十五年
自千八百四十二年
其 荷蘭外務卿
送付セテ諸條例及
七布告類ノ件名
第一疑問ニ付
千八百四十七年十一月二十六日
布告貨幣假條例
百廿七書第
千八百七十四年十一月三日
第三十一号布告造幣局首長職制
百廿五書第
并ニ千八百四十七年
百廿五書第
并ニ千八百四十七年

千八百七十五年	入及銀	1000000.00
千八百七十四年	入及銀	1144050.00
千八百七十三年	入及銀	500000.00
千八百七十二年	入及銀	10240000.00
千八百七十一年	入及銀	1440000.00
千八百七十年	入及銀	800000.00
千八百六十九年	入及銀	1190000.00
千八百六十八年	入及銀	470000.00
千八百六十七年	入及銀	1004000.00
千八百六十六年	入及銀	510000.00
千八百六十五年	入及銀	1044000.00
千八百六十四年	入及銀	600000.00
千八百六十三年	入及銀	404000.00
千八百六十二年	入及銀	1000000.00
千八百六十一年	入及銀	1000000.00
千八百六十年	入及銀	500000.00
千八百五十九年	入及銀	1110000.00
千八百五十八年	入及銀	800000.00
千八百五十七年	入及銀	1440000.00
千八百五十六年	入及銀	4000000.00
千八百五十五年	入及銀	504000.00
千八百五十四年	入及銀	5440000.00
千八百五十三年	入及銀	800000.00
千八百五十二年	入及銀	1144000.00
千八百五十一年	入及銀	1144000.00
千八百五十年	入及銀	1144000.00
千八百四十九年	入及銀	1144000.00
千八百四十八年	入及銀	1144000.00
千八百四十七年	入及銀	1144000.00

62

三

千八百七十五年六月六日ノ條例ニ從ヒ本位金貨鑄造高左ノ如
シ但シ布告書第百十七号ヨリ抄録ス

自千八百七十五年七月一日	四千一百萬「フロ」リ
自千八百七十六年一月一日	一千五百八十二萬「フロ」リ
自千八百七十七年六月三十日	一千五百八十二萬「フロ」リ

合計五千六百九十一萬一千「フロ」リ

古ノ鑄造ハ專ラ人民ノ依頼ニ依テ改鑄セル所ナリ而シテ此ノ以
後ハ更ニ貨幣ヲ鑄造シタル「フロ」リ

荷蘭外務卿ノ送付セテ諸條例及ヒ布告類ノ件名

第一疑問ニ付 千八百四十七年十一月二十六日布告貨幣假條例

百廿七書第 千八百七十五年六月六日布告貨幣假條例 百廿七書第

千八百七十四年十一月三日第三十一号布告造幣局首長職制 百廿五書第

并ニ千八百四十七年 百廿五書第

大 長

十一月三日(布告書第三十三号)銀貨鑄造手数料等ニ付キ規則
 千八百四十八年六月二十九日(布告書第八号)及ニ千八百七十五年
 六月二十六日(布告書第四十三号)金貨鑄造手数料等ニ付規則
 第二疑問ニ付 荷蘭國ニ金銀山ナキヲ以テ毎年産出如何ノ疑
 問ニ答フレニ由ナシ而メ毎年貨幣鑄造高及ニ輸出高ニ付テ
 ノ計算ハ封入書(甲)(乙)(丙)ニ就テ見ルヘシ
 第三疑問ニ付 第二疑問ノ應答此ノ如クナルカ故ニ亦本條疑
 問ニ付テモ應答スルニ由ナシ
 第四疑問ニ付 造幣白ニ於テ一周間ニ定式鑄造スル高、金貨
 二百五十万フローリン及ニ本位銀貨百フローリンナリ而メ
 其ノ改鑄ノ依頼ヲ受ケタル時ニ成實渡日限ハ其時ノ事情ニ
 依テ遲速アリト虽尺概子一周間ヲ定期トス
 第五疑問ニ付 造幣規則制定ノ為メ荷蘭國下院ニ上申セラレ

63

タル議案ノ全稿先ニ諸公文書類ヲ茲ニ封入ス
 第六疑問ニ付 造幣ノ事ニ関シ近時ノ事跡ヲ記セハ即チ千八
 百七十三年四月一日ヨリ一周年間銀貨ノ鑄造ヲ停止シ千八
 百七十四年四月二日ニ至テ又其ノ鑄造ヲ開キ大ニ人民ノ便
 益ヲ求セリト虽尺同年十二月三十一日ヲ以テ又之ヲ停止シ
 明年七月一日ニ至リ又開命セリ乃チ此開命ノ時ヲ以テ上ニ
 記載スル千八百七十五年六月六日ノ貨幣條例実施ノ始メト
 ス但シ此條例ハ千八百七十七年一月一日迄ニ第五疑問ノ部
 ニ記スル所ノ議案ニ照依シテ改正増補ヲ為スベキモノトス
 三 造幣假規則
 千八百七十五年六月二十一日大藏省第百十五号ノ布告ニ從テ
 人民造幣局ニ地金ヲ輸納シ改鑄ヲ依頼セル時該局ニ至當ノ報

酬ヲ納メテ坐ルベキ事ト荷蘭国王「ウキルリヤム」第三世思考ス
ルカ故ニ即チ千八百四十九年十月五日第七十二号布告四ヶ條
ヲ左ノ如ク改正施行スルモノナリ

第一條 ナ「フロリー」金貨ノ改鑄手数料ハ左ノ割合ニ準シ前
拂タル事

一節 年二十万「フロリー」以下ノ改鑄ヲ要スルモノハ一「キ
ログラム」ニ付半「ギユ」ル「デル」ノ割合ヲ以テ拂フベシ

二節 年二十万「フロリー」以上ノ改鑄ヲ要スルモノハ一「キ
ログラム」ニ付一「ギユ」ル「デル」ノ割合ヲ以テ拂フヘシ

第二條 本日布告第四十二号規則ヲ準用シ若シ造幣局ニ備技
手ノ奉給減少スルニ於テハ後日改正スル「フ」アルベシ

第三條 造幣首長ハ三ヶ月毎ニ大藏省ニ其仕拂ヲ為スベシ
第四條 此見別ハ千八百七十五年七月一日ヨリ施行シ大藏卿

64

之ヲ提督スミシ而メ此規則寫一通ハ豫メ會計總院ニ送致シ
テ此旨ヲ通達スヘシ

千八百七十五年六月二十六日在「クラレン」ス

国王「ウキルリヤム」

大藏卿「エーキ、セー、ハンデル、ヘーム」

大藏大書記官「バルストラ」

副寫確實古ノ如シ

〔上〕 改定造幣規則

天祐ヲ受テ以テ荷蘭国王兼「オレンヂ、ナツソ」ロキセンボルグ
等ノ大公タル朕「ウキルリヤム」第三世ハ千八百七十五年六月二
十一日大藏省布告第百十五号ヲ以テ公布セル如ク千八百五十
年六月一日第二十五号布告造幣規則四ヶ條及「千八百七十五

大藏省

年六月二十六日改正假定造幣規則ヲ左ノ如ク改定スルモノナリ

第一條 公私ヲ問ハス渾テナ「フロリーリ」金貨ノ改鑄ヲ要スル

中ハ其ノ手数料ハ左ノ割合ニ準シテ前押タレハキ

一節 「フロリーリ」金貨ヲ以テ年二十万「ギエル」以下ノ改

鑄ヲ要スル片ハ「ギログラム」ニ付四「ギエル」以下ノ改

「セント」ノ割合タルベシ

二節 同貨幣ヲ以テ年二十万「ギエル」以上ノ改鑄

ヲ要スル片ハ「ギログラム」ニ付四「ギエル」ノ割合

タルハシ

第二條 公私ヲ問ハス渾テナ「フロリーリ」金貨鑄造ノ際造幣局

招傭技手ノ左ノ割合ヲ以テ支給スベシ

一節 年二十万「ギエル」以下ノ改鑄ナレハ「ギログラム」

ニ付一「ギエル」以下ノ割合タルベシ

二節 年二十万「ギエル」以上ナレバ「ギログラム」ニ付一「ギ

エル」ノ割合タルベシ

第三條 若シ現今招傭技手十三名ノ中欠負アルニ於テ前條

ノ俸給ハ減員ニ割合減省スル所アルベシ

第四條 招傭技手ノ俸給ハ毎週ニ造幣首長ヨリ給與スヘシ

第五條 此規則ハ千八百七十五年七月一日ヨリ施行シ大藏卿

之ヲ提督スヘシ而シテ此規則寫ヲ以テ會計總院ニ送致シテ此

旨ヲ通達スベシ

千八百七十五年七月二十六日在「グ」ラレンス

國王「ウ」ケルリヤム

大藏卿「エ」ー「チ」ゼー「ハン」デル「ヘー」ム

副寫確實右ノ如シ

大藏省

〔子〕
并啓貨幣委員ノ疑問ニ付嚮ニ我輩鄙辞ヲ陳述シテ其ノ應答ヲ
貴下ニ進呈セシ角後荷蘭國造幣首長ノ應答ヲ同國外務卿ヨリ
得タルカ故ニ之ヲ英文ニ翻譯シ以テ茲ニ封入ス但シ刊行ノ書
類ハ別封ニ付セリ

貨幣上ノ論題ニ付既ニ此國ニ於テモ本月二十四日金曜日ニ一
大法制ヲ議院ニ於テ議決セルヲアリ今我輩其ノ要ヲ摘要シ前
ノ應答ヲシテ聊カ完備ナラシメント欲ス
先ツ其ノ貨幣議案ハ政府ノ発議セル所ニシテ下院ニ於テハ五
ノエレデル逆幣云々條疑ヲ不可トシテ排斥セル外餘條ハ悉
ク此議案ヨリセリ故ニ亦上院ニ於テモ敢テ異議スレナク之

66

ヲ可トスルベシ而ノ其ノ旨趣ハ金貨本位ヲ立テ銀貨ヲシテ適
法通貨タルノ性然ラズ隆セシムルト云フニ非サレハ先ツ其ノ
鑄造ヲ停止シ大藏卿若シ本位金貨ヲ保護スルヲ要用ト思考ス
ルカ將タ銀貨ヲ沽却レテ金ヲ買収スレヲ要用ト思考スルカ
流用銀貨幣ヲ交換徴収スルノ權ヲ有スベキモノトス而メ東西
印度屬地ニ於テモ其ノ在留公使ニ謀リ以テ本位金貨ヲ保護セ
シメントスルノ政策ニ出ルモノ、如シ勿々不具百拜

米國公使館

「ゼームス、ホル子」謹白

國務卿「ハミルトン」ヲシテ閣下

〔リ〕
拜啓十一月二十七日附、賤翰ヲ以テ我輩ハ荷蘭貨幣議案ノ要
ヲ約言シ既ニ其月二十四日下院ニ於テハ之ニ同意セルヲ以テ
上院ニ於テモ亦肯諾スルナラント推言セシカ幾クモ無クシテ
此ノ議案ヲ上院ニ出セシニ圖ラサリキ皆ナ之ヲ不可トセルカ
故ニ終ニ畫餅ニ屬セリ適々本日政府ハ又更ニ一ノ新案ヲ起セ
リ其ノ要旨ハ千八百七十五年六月六日以降実施セル規則ト異
同ナキカ如シ而シテ千八百七十七年一月一日前ニ之ヲ議定施行
センコトヲ期ス勿々不一致稟

千八百七十六年十二月二十三日在「ハーグ」

米國公使館

「セームス、ボル子」謹白

67

國新報「ハミルトン」フ井シエ閣下

仔太利國ニ寄

- 〔一〕 公使「レ」ヨリ國務卿宛ノ書
- 〔二〕 貨幣委員ノ疑問（係ニ部ニ分ニ）ノ内四件ニ付應答
- 〔三〕 公使「レ」ヨリ國務卿宛ノ書
- 〔四〕 貨幣委員ノ疑問（係ニ部ニ分ニ）ノ内四件ニ付應答
- 〔五〕 公使「レ」ヨリ國務卿宛ノ書
- 〔六〕 貨幣委員ノ疑問（係ニ部ニ分ニ）第八條ニ付追答
- 〔七〕 公使「レ」ヨリ國務卿宛ノ書
- 〔八〕 仔國鑛山規則（本ノ書）
- 〔九〕 同上（全上）
- 〔十〕 千八百六十一年十二月制定貨幣規則
- 〔十一〕 千八百六十二年八月制定貨幣規則
- 〔十二〕 千八百六十五年仔太利、白耳義、佛蘭西、瑞西蘭、四國結

大藏省

約貨幣規則 (本書 略)

〔五〕 一千八百七十四年八月制定貨幣規則

〔四〕 一千八百七十五年七月制定貨幣規則

〔三〕 一千八百七十六年四月制定貨幣規則

〔二〕 一千八百七十四年四月制定貨幣規則

〔七〕 通貨報告 (本書 略)

〔六〕 紙幣流通報告 (全上)

以上

69

〔一〕

此啓嚮ニ十月十六日附六百三十二号ノ批翰ヲ以テ我輩遺憾ナ
カニ貨物委員ノ疑問ノ應答ヲ貴下ニ進呈スレテ能ハス而モ我
公使館所裁文書ノ中其ノ應答ニ資便スルモノナキヲ以テ
應答期日ノ甚々切ナレヲ以テ唯我輩ハ仔國大藏省ノ紳士ニ依
テ以テ其ノ疑問ノ釋解ヲ請願セシカドモ前翰ニ概陳セルカ如
ク此等紳士トテモ適々議院ニ上申文書ヲ制スルノ際ニシテ皆
テ其ノ事ニ執掌シ為メニ爾後亦何等答辭ヲ得スシテ終ニ本月
二十五日土曜日ニ至リ終ニ其書ヲ得タリ
今我輩其ノ書翻譯成了ノ分三葉ヲ茲ニ封入ス殘餘ノ分不日翻譯
成了次第送致スヘシ最モ書中私事ニ関スレモハ特致スル
ヲナサズ又其ノ答書ヲ委ノ翻譯セバ隨テ送付ノ時期稽滯ナキ
ヲ得ス是封入書中原文ヲ付スル所以ナリ而メ造幣局ヨリ未タ

何等ノ應答ヲ得スト虫氏之ヲ落掌セハ直ニ翻譯ノ上高覽ニ呈
セント欲ハ貴下之ヲ恕諒セヨ頓首欽稟

千八百七十六年十一月二十七日在羅馬

氷國公使館

「ジョー、ペー、マー」ニ謹白

國務卿「ハミルトン」ヲキシユ閣下

○ 各國在留米公使ニ對スル貨幣委員疑問應答

第一疑問 貴下駐在ノ國ニ於テ過レ十五ヶ年間金銀比較價不

ニ付交易アリシヤ

○ 我駐留ノ不利國ニ曾テ金銀山ノ開坑ナキヲ以テ其

ノ國産ナキヲミナラス隨テ亦之カ著甚ノ取引アルヲ見ス唯美

170

術製作等要用ノ為メニ其ノ少量ヲ以テ屢々輸入スレノミ而メ

生銀價ノ如キハ千七百七十四年ヨリ七十六年迄ハ之ヲ齎承セ

ル同 但高ニ準依シテ常ニ浮沈低高ヲ為スト虫氏金價ハ敢テ

必スレモ迄リトセス乃チ純金一「キログラム」ニ付此同平均ノ相

場ハ三千四百三十七「ライラ」ナリ

第二疑問 金銀價格比較ニ變易アリトセバ其ノ變易ノ性質及

ヒ區域ヤ何

○ 應答 此國始メテ銀價ヲ確定セル品位ハ純銀一「キログラム」

ニ付二百二十「ライラ」五〇ナリ然ルニ漸ク下落シテ百八十「ライ

ラ」ニ至レリ（千八百七十六年其時ノ相場）而メ後々騰貴シ終ニ今

日ニ迄二百「ライラ」ニ昂貴セリ

○ 第一疑問 純金ヲ以テ純銀ノ年平均相場或ハ純銀ヲ以テ純金ノ

年平均相場或ハ本位金銀價ニ相當スル價格ノ年平均相場ノ

大藏省

明細如何而ノ差シ足式ノ賣買ナクシテ其ノ精算ヲ得難キハ
 ハ純金銀比較價格ニ就最モ正確ト認ムル者ノ明細如何
 應答 過ル十五ヶ年間ハ純金ノ價格一キログラムニ付三千
 四百三十七ライラノ相場ナリ而ノ此間ニ純銀ノ年平均相場ニ
 低高アレ花ノ如シ

自千八百六十二年至七十三年	純銀一キログラムニ付	二百二十「ライラ」五〇
千八百七十四年	全	二百十八「ライラ」八八
千八百七十五年	全	二百十一「ライラ」五五
千八百七十六年	全	百九十九「ライラ」三五
右ハ古金銀改鑄ノ為メ政府ニ於テ之ヲ買収シタル前ノ相場ニ シテニ千八百六十二年、三年ハ其ノ相場ニ浮沈ヲ生セスシテ二 百二十「ライラ」五〇ト云フ		
又純銀ヲ以テ純金一キログラムノ平均相場ハ左ノ如シ		

自千八百六十二年至七十三年	純銀十五「キログラム」	五八七
千八百七十四年	同 十五「キログラム」	七〇三
千八百七十五年	同 十六「キログラム」	二四六
千八百七十六年	同 十七「キログラム」	二四六
又純金ヲ以テ純銀一「キログラム」ノ平均相場ハ左ノ如シ		
自千八百六十二年至七十三年	純金〇「キログラム」〇六四、一五三	
千八百七十四年	同 〇「キログラム」〇六三、六八三	
千八百七十五年	同 〇「キログラム」〇六一、五五一	
千八百七十六年	同 〇「キログラム」〇六一、〇〇一	
〔疑問〕 本位價格即ケ凡テ幾許巨大ノ仕拂向ニ於テモ使用シ 得レモノハ金ナルカ銀ナルカ或ハ金銀ナルカ或ハ又金銀比 較價格、如何又當千九百年間ニ於テ其ノ比較ノ變易セル所 以ヲ一々審述アラントラヒフ		

應答 嚮ニ付太利各地方連結一統シテ維新政府先ツ其ノ貨
幣法ヲ一定セント即チ千八百六十二年八月二十四日布告第七
百八十八号ヲ以テ各地方従前流用ノ貨幣ヲ交換徴収シ以テ佛
國ノ貨幣十進法ニ依ル旨ヲ頒布セリ(佛國貨幣法ハ既ニサレシ
行ハレタリ)是ニ於テ乎始テ付國ノ廟寔ハ金貨單本位ニ決シタ
ルモノ、如シ如何トナレバ其ノ條例第六條ニ銀貨五ライラ(性
百ノ割合ナリ)ハ人民ノ依頼ヲ受テ鑄造シ政府ハ特ニ之ヲ新造
セスト明文アレハナリ故ニ又政府漸ク旧銀貨ヲ徴収セハ隨テ
之ヲ造幣局ニ致シ海外ニ運搬セシヲ以テ金ト交換セシタリ
然ルニ千八百六十六年戰役アリシヨリ之ヲ為メ銀行紙幣ノ流
通ヲ庶幾セシカ此際適々国立銀行ハ(當時此銀行ニ於テ
不備スルノ逼迫イサレ曾テ政府ヨリ交付セル旧銀貨ヲ以
テ一箇人民ノ怒トナリテ自費ニテ新銀貨ニ改鑄セザルヲ得サ

72

ルニ至、終ニ又政府ハ千八百七十五年七月十七日布告第二千
二百五十一号ノ令ヲ以テ千八百六十二年八月二十四日布告
貨幣條例第六條銀貨鑄造ノ制限ヲ暫ク解停セリ是ヲ以テ現
時尚ホ兩半位ニシテ金銀貨共ニ千分ノ九百ノ純分ノ含包ス而
メ日用諸般ノ仕掛或ハ公納若クハ輸入等ニ関スル仕掛向ニ於
テモ金銀貨共ニ適法通貨ナルカ故ニ二者價格ノ比較ニ付亦何
等規則ヲ設ケシヲ聞カス

○疑問 金銀貨及ヒ地金ノ現在高綫許ナルヤ又何等ノ貨幣ヲ
以テ補助貨幣ト為セルヤ又補助貨幣ノ通用制限如何

應答 千八百六十二年八月二十四日ノ布告ニ因テ旧銀貨交換
徴収高五億ハ同高ノ金貨ヲ増發シ以テ之ヲ填塞スヘキモノト
ス新銀貨、此額ヨリ少ナキ高ヲ鑄造スヘキモノトス是前ニ記
載セル○疑問ノ應答書中金銀鑄造高ノ比較ヲ變更シタルニ基

ヒセル所以ナリ又千八百六十二年ヨリ今日迄ノ金貨鑄造高ハ
僅ニ八千万磅ニ過キス又銀貨五「ライラ」ノ鑄造高ハ同年間ニ三
億二千四百萬磅ナリ而シテ金銀地金ニ至テハ其ノ現高詳カナラ
ス且ツ古鑄造銀貨ノ他ニ尚ホ奇零ノ補助銀貨（純合千分ノ八百
三十五ノ割合ナリ）増鑄高一億五千六百萬「ライラ」アリ而シテ此等ハ日用諸般ノ取
引上五十「ライラ」迄ノ適法通貨ト爲ス但シ公納向ハ特ニ其制限
ヲ立テス

三疑問 板金身飾及ヒ其他ノ物件ニシテ直チニ貨幣ニ改鑄ス
ルヲ得ルモノ、現在高幾許ナルヤ

應答 右件ニ付キ仔國ニ一ノ統計書又ハ其ノ他依テス「キ
書更ニ之ナキカ故ニ其ノ概算ヲモ得テ知ルベカラズ

二疑問 通貨トシテ流通スル所ノ紙幣、銀行紙幣其ノ他諸証券
ノ高幾許ナルヤ又右等ハ皆テ適法通貨ナルヤ否ヤ若シ適法

73

通貨ナル中ハ其ノ通用制限如何又所有主ノ請求次第貨幣ニ
交換スルヲ得ルモノナルヤ若シ然ラサルモ貨幣ニ對スレハ
其ノ相場如何

應答 嘗テ仔國ニ於テ主領ナル六銀行即チ王國々立銀行、羅
嗎銀行、子「パルス」銀行、「リ」銀行、「タスカニ」国立銀行、「タス
カニ」信用銀行アリ而シテ千八百七十四年四月三十日第九百
二十号ノ布告ヲ以テ古等銀行ノ紙幣發行先ニ流用ノ制ヲ定メ
タリ此規則ニ據レハ各銀行合資協力ノ上政府ノ保証ヲ得テ
十億萬磅ノ高ヲ發行スルヲ得ルモノトス其ノ紙幣ハ皆テ適法
通貨ナリ尤モ政府ハ現在王國々立銀行ニ借財セル紙幣ハ億四
千万「ライラ」アルヲ以テ逐次之ヲ償還スレ割合ニ隨テ其ノ紙幣
ヲ發行セム而シテ他ニ其ノ紙幣ヲ増發セント欲セハ特ニ之
ノ規定ヲ設ケ其ノ銀行ニ於テ自カラ擔當スルニ於テハ又若干

此ノ紙幣ヲ発行スレテ得ルモノトス而テ此等紙幣モ亦適法通貨トス

千八百七十四年迄ハ仔國ニ許多ノ奇零証券、流用マリ是時首
出上ニ奇零ノ銀貨及ヒ青銅貨ノ匱乏セラレテ填塞セントスレノ
目的ヲ以テ千八百六十六年頃ヨリ逐次ニ發行セルモノニシテ
終ニ之カ濫發汎溢ノ弊ヲ醸生シタルノ故ヲ以テ上ニ記載セル
如ク布告ヲ發シ以テ私ニ証券ヲ發行スレテ禁止セリ

今仔國ノ通貨總額ヲ掲ケハ政府ヨリ發行ノ紙幣九億四千万磅
合資協カノ六銀行ヨリ發行紙幣六億一千五百万磅ナリ而テ此他私
發ノ証券類ハ前ニ述レタ如ク嚴禁タリ又右合資協カノ六銀行
ヨリ發テスレ紙幣ハ正國內一般ノ通貨ニシテ貨幣ト同様流用
スレテ得ント雖モ此他ニ發行スレ紙幣ニ至テハ其ノ銀行所在
ノ地方若クハ支店所在ノ地方限リ流用スレテ得ルモノニシテ

74

一般ノ通貨ニ非ストス尤モ海關稅ヲ除クノ外凡テ公私ノ仕持
ニ使用スレテ思直ツ其ノ所有者、請求次第ニ換紙幣合資協カノ六
銀行ヨリ要ト交換スレテ得ルモノナリ又政府發行ノ紙幣ヲ以
テ貨幣ニ比較スレバ現時九歩七厘ノ打歩アリ

三、疑問 當百年間ニ金銀山ノ年平均產出高如何

應答 上ニ述フレカ如ク仔國ニ於テハ金銀山ハ幾ント
之ナキカ故ニ其ノ產出極テ僅少ニシテ特ニ記載スレニ足ザル
ナリ

第三疑問 金銀價格比較ノ變易ノ由テ起リシ原因如何

應答 古比較ノ變易タルヤ各國幾ント皆ナ其ノ原ヲ同フス
就中其最モ著顯ナルモノヲ掲ケバニアリ曰ク獨逸ニ於テ銀貨
ヲ廢止シシ貨單本位ノ法ヲ採用セル其一ナリ又米國田銀山ノ
產出漸ク増殖シ更ニ諸銀山ノ開鑿セルモノアル其二ナリ又輓

大藏省

近英國ニ於テ印度ニ輸出スルノ需用減少ナル其三ナリ

第四疑問 右種々ノ原因ハ永遠之ヲ撤去スル能ハサルモ、ナ

レヤ又金銀採掘費用相共ニ減省スル能ハサル所以ニ因テ終

ニ其ノ原因ヲ消絶スルヲ得レヤ或ハ此他ニ其ノ原因ヲ除去

セシムルノ事由アリヤ

應答 右種々ノ原因中一時ノ弊カラ有スルモノアリ即チ獨

逸國ノ銀貨ヲ廢止セルカ如キハ一時ノ原因ナリ又銀山産出ノ

漸ク多量ニ赴クカ如キハ遠永ノ原因ナリ蓋シ宇内ノ鑛山中常

ニ其ノ産量ニ増減アリテ或ハ彼處ニ減スレハ此處ニ増ス

リト虽氏之ヲ平均セハ漸次増殖ノ弊アルヲ以テナリ況ヤ當時

金量産出ノ銀量産出ニ差カサルニ於ケルヲヤ且ツ東洋地方ノ

銀需要ニ於ケル其ノ需熾ンナレハ隨テ後ニ之カ反動カラ起シ

以テ銀貨ノ低落ヲ生スルハ弊ノ然ラシムル所ト虽氏（輓近其カヲ）

175

起シ歐洲ニ銀價大要スレニ東洋地方ハ尚ホ未タ歐米ニ仰カサ

シ得サレカ故ニ亦歐米ニ其多量ヲ餘スノ憂アルナシ

第五疑問 金銀價格比較ニ変動アリテ之カ為ノ果シテ通商貿

易製産及ニ財勢上ニ影響ヲ生セシヤ又貨幣本位價格右ノハ

法制上ニ影響ヲ波及セシヤ

附言古應答ハ三部ニ記載ス

六

拜啓貨幣委員ノ疑問ニ付其ノ應答書二葉ヲ茲ニ致送シテ閣下

ニ奉呈ス而シテ其ノ疑問ハ條ニ付委細ノ報道ハ我輩之ヲ一二日

間ニ得ヘキヲ以テ不日寄送スベシ勿々不罄頌首欽稟

一千八百七十六年十一月二十九日在羅嗎

米國公使館

ジョージ、ピー、マーン、ユ

國務卿「ハミルトン」ヲ拜シテ閣下

三

第二疑問ノ答

付太利ノ貨幣法ハ金銀兩位ニシテ而モ其ノ比較價格ヲ確定セ
ルカ故アルヲ以テ其ノ比較紛錯變轉ノ憂ヲ免カレ、ヲ得タリ
蓋シ取引上大金ノ仕掛ニ於テハ財主常ニ下等ナル金屬ノ貨幣
ヲ以テ給辦セン、ト欲スト虫氏其ノ仕掛ヲ受クル者モ亦其ノ
受クル所ノ貨幣金銀何レニシテモ諸般ノ仕掛ニ使用スルヲ得
ルカ故ニソテ取引上金銀價格錯乱ノ害アリシヲ見ス但外國貨
易上往々ニ銀貨ヲ好マスシテ金貨ヲ好ムトアリ是其ノ量僅少

70

ニシテ運搬ニ便シキ所以ナリ故ニ亦政府特令ヲ下シテ其ノ比

較價格ヲ交易セントシタルカ如キ處置アルナシ

第六疑問 金銀塊改鑄手数料如何又其ノ改鑄額ニ制限アラバ

之ヲ問フ又造幣ノ事ハ獨リ政府之ヲ擔任セルヤ或ハ其權ヲ

以テ人民ニ付與スルヤ又常ニ輸入スル外國貨幣ヲ以テ適法

通貨ト為ス、トアルヤ若シ然ラハ其ノ比較如何又輸出ノ為メ

ニ時ニ金銀貨ヲ鑄造スル、トアリヤ又補助銀貨若クハ突行ニ

制限アル貨幣ニ就キ竊ニ鑄造セラレテ尋シク流通スルモノ

アリヤ若シ然ラハ其ノ鑄造ヲ問フ

應答 千八百六十一年十二月十二日ノ布告ヲ以テ造幣官輸

納ノ純金ハ一「キログラム」ニ付純金九分混合一分ノ金貨ニテ三

千四百三十七「ライ」ヲ鑄造スベキモノトシ又純金ハ一「キログ

ラム」ニ付純銀九分混合一分ノ銀貨ニテ二百二十「ライ」ヲ

鑄造スベキモノトス而メ千八百七十四年ニ迄テ銀貨稍々下落
ノ色ヲ顯ハシタリト云凡其ノ性合ニ至テハ敢テ変更セス尚ホ
巴印ニ詳述セル所ヲ参考スベシ蓋シ元來金銀貨共ニ鑄造制限
ナシト云凡千八百七十四年ニ至テ彼ノ羅甸同盟ニ加ハリタル
カ故ヲ以テ毎年五ライヲ銀貨ノ鑄造ヲ制限スルニ及ベリ乃チ
本年ノ制限額ハ三千六百磅トス(千八百七十四年八月三十日
布告ニ千六百五十
五年七月十七日布告二千六百五十一号ヲ見ルベシ)又嚮ニ千八
百六十年十月二十日布達第二百八十八号ヲ以テ造幣ノ權ヲ
十二ヶ年間仔國々立銀行ニ付與シ以テ官立造幣局ヲ管理セシ
メシカ其ノ期限満了セルヲ以テ尚ホ一年ヲ展期セシメシトス
ニ千八百七十四年十二月三十一日ヲ以テ滿期セリ而メ此時以
降仔國・造幣局・羅甸府ニ政府カ直轄スル所ノ一箇アルノ三
又千八百六十二年八月二十四日第七百八十八号ノ布告第九條

77

ニ定メタルカ如ク純分性合ノ外國金銀貨ハ凡テ適法通貨トシ
テ制限ナシテ流用スルヲ得ルモノトス又千八百六十六年七月二
十一日布告第三千八十七号ヲ以テ千八百六十五年十二月二十
三日巴黎ノ造幣會議ニ依テ佛蘭西、白耳義、瑞西蘭土、希臘ノ四國
ニ於テ鑄造スル奇零銀貨(補助貨幣)モ亦凡テ適法通貨トシテ流用ス
ルヲ得ルモノトス但シ公納向ニ於テハ百磅迄ヲ制限トス
今日ニ至ル迄仔國造幣局ニ於テハ輸出ノ為メニ特ニ金銀貨幣
ヲ鑄造セルナシ但シ之ヲ為スニ當テ別ニ禁令ナシ而メ補助
貨幣或ハ発行高ニ制限アル貨幣ニ就未タ曾テ之カ屢造ノ迹ヲ
見サルカ如シ

第七疑問 貨幣及ヒ地金ノ年輸出入如何
應答 毎年仔國大藏省租稅局ヨリ発行ノ仔太利王國商業概
況(アノト)題七一書ニ就過ル六年間輸出入ノ貨幣及ヒ地金ノ高ヲ掲

クハノ如シ

年度	金銀貨	金銀地金
	輸入	輸出
千八百七十一年	六、一〇、七三五	九、〇二、一六一
全 七十二年	四、〇三三、〇二一	一、九三八、四七八
全 七十三年	八、六三三、三〇五	八、六七〇
全 七十四年	四、六二九、四六五	五、八二一、一四一
全 七十五年	六、五六六、二四五	一、〇、一三七、一四一
全 七十六年	二、九二三、五六七	四、九七一、三七八
九月三十日迄		一、四六一、二八〇
全		一、八九一、一五九

第八疑問 金銀山開坑ノ手續ハ如何又其ノ法制差クハ慣例ノ法アリヤ若シ之アテバ其ノ借區如何又鑛山稅如何又其ノ開坑ノ際以テ造幣ノ際ニ其ノ稅ヲ課收スレ他ニ尚ホ收稅スレ

78

應答 前ニ記載セル如ク仔國ニ於テハ幾ント金銀山ナキカ故ニ他邦於ケルカ如ク特別ノ法則ヲ設ケテ鑛山ノ事業ヲ管理スレカ如キナク又統計家ノ注視スベキ法制等絶テ之ナシ又地金板金身飾此他諸製作品ノ破壊ニ屬セル金銀ハ輸出ニ共ニ無稅ナリ

第九疑問 以上疑問ノ應答ニ付尚ホ之カ明白ヲ要スル為メ緊切ナル書類又ハ徵証トモナルベキ者ヲ悉皆明示センテ請フ又此他金銀ニ関シ貨幣委員ノ参照ニ足ルベキモノアラハ委曲ニ通報ヲ請フ

應答 千八百七十六年五月二十六日及ニ八月十二日ニ仔國大藏省ヨリ同國外務省ニ送付シタル造幣諸規則其ノ他種々ノ者ハ余應答書ノ資料ト為セルモノニシテ其ノ書中緊要ナル事項多アリ又貨幣委員ヨリ在海外米公使ニ對スル疑問ニ付テ

、應答ハ仔國大藏省ノ紳士ヨリ我公使館ニ私報セルモノヲ以テ
テ翻訳セル所ナリ而メ以上ノ應答ニ尚ホ左ノ四條ヲ追加シ聊
カ増補スル所アラシクテ欲ス

第一條 仔國「ライラ」貨幣ハ一般ニ「記号」ヲ以テ表示ス其ノ價
正サニ併國一「アラシク」ニ當ル

第二條 仔國利「ゴ」ルソ、フオルゾノ義ハ我「リ」ガレ、デノド
レ(適法)ニ適當ス又「ゴ」ルソ、リゲール(通貨)ハ通貨ノ義ニシテ適法

通貨ニ非サレバ諸般ノ仕掛方ニ使用スルヲ得恰モ我合衆國
ノ銀行紙幣ノ如キモノナリ

第三條 協同銀行ヨリ発行ノ紙幣ト政府ヨリ発行ノ紙幣トハ
直チニ貨幣ニ交換スルヲ得ルモノニアラス而モ其ノ通用期

限ニ制限ナシ唯向未貨幣ヲ以テ之ヲ消還セントスルノ保証
タルモノハ協同銀行ノ資本ト政府ノ信憑トニ在ルノミ(金) 疑

79

應答
見ル所ナリ

第四條 如ハ疑問ニ付諸鑛物發見ノ権理ニ関シ或ハ鑛山事業
ニ関スル規則ハ余未タ之ヲ聞知セス目下之ヲ以テ四方ニ諮
詢スル所ナリ

謹啓海外米公使ニ對スル貨幣委員ノ疑問中第八條ニ付委曲ノ
通報ヲ得タルハ我輩茲ニ追加ニ葉ヲ封入シ以テ前ノ應答ヲ完
結セントス但シ其書中ニ示ス所ノ刊行文書ノ如キハ本月四日
即チ月曜日ヲ以テ國務省ニ進呈セント欲ス閣下之ヲ諒セヨ勿
々不聲謹言

千八百七十六年十二月二日在羅馬府

米國公使館

「ジョー、ピー、マーン」

國務卿「ハミルトン、フレ」閣下

右封入書

嚮ニ谷書ヲ製シテ閣下ニ奉呈セル後第八疑問ニ付委曲ノ報
道ヲ得タルカ故ニ茲ニ之ヲ哀輯スレ左ノ如シ
蓋シ仔國ノ金銀産出ニ於ケル極テ些少ニシテ一國造幣ノ資ト
スルニ足ラサルカ如シト魚尾金山ノ如キハ嘗テ「ワル、エンガ
カ」其ノ地北方ニ於テ採探ス而モ其ノ事業タル尚ホ微々タルモ
ノナリ又「タスカ」銅山ニ於テハ絶品ノ金ヲ出ス而モ「サル
ア」島ニ於ケル銅鉛等ノ鑛山ノ産出ヲ以テ分析シテ得ル所ノ
銀ハ其ノ工業ノ費用ヲ償フニ餘リアリト云フ然レ元來此國ノ

80

金銀産出ニ於ケル甚タ僅クナルノ故ヲ以テ特ニ之カ制度ヲ設
ケス唯一般ノ法則中ニ鑛山事業ニ関スル規定ヲ存スルノ三故
ニ今日施行ノ鑛山規則ノ如キモ亦田政府裁判スル所ニシテ而
モ政典ト云フニ非サレハ其ノ細目ノ如キハ判然劃一ナラザル
カ如シト或ハ其ノ要領ニ至テハ亦各國ノ通法ト違フ所ナシ即
チ外面ノ地ヲ所有スル權利ト土中ノ物ヲ所有スル權利トヲ區
別シ以テ鑛山賣買ノ権理ハ國君獨リ之ヲ有スルモノト為ス
前「サルガア」州羌ニ「ロンバルデー」マ「チエセス」及ヒ「アンブリ
」地方ニ於テハ千八百五十九年布告第三千七百五十五号「サル
」ガ「ア」鑛山規則ヲ履行ス此規則ニ據レハ鑛山ノ類ヲ分テ數種
トス曰ク煤山曰ク金屬鑛山曰ク黄銃山曰ク化木鑛山曰ク寶石
鑛山曰ク石油山曰ク硫酸鹽山曰ク地「松」香山「黑」虎「珀」等ナリ又此
他ノ鑛物採探ノ事業ヲ數様ニ分ツ曰ク泥炭採探曰ク沙及ヒ

金、銀、銅、鐵、鉛、鋅、石類、水晶、炭、灰、坭等ナリ
凡ソ鑛山ノ勅許ヲ得ルニアラザレハ之ヲ開採スルヲ許サバ
モトス而シテ其ノ許可ヲ得タリトモ、通常外面ノ地下殊異ナ
ルヲ以テ賣買或ハ配當スレカヤキハ素ヨリ特許ヲ得ルニ非
レハ為ス能ハサル所ナリ故ニ若シ發起者半途ニシテ其ノ業ヲ
廢スルモ其ノ鑛坑ハ素ヨリ官有ナルカ故ニ更ニ政府ヨリ其地
主ニ之ヲ沽却スレカ或ハ他ニ其ノ再開ヲ許可スレトアリ又已
レノ地下ニ他ヨリ鑛坑ヲ疏通スレカヤキトアリトモ、其ノ請
求スルノ權利ナキモノトス但シ採鑛ノ為メ穿鑿中過テ他ノ所
有ニ損害ヲ起スニ於テハ素ヨリ至當ノ報酬アルベキモノトス
故ニ此ノ如キ損害ヲ豫防センカ為メ地主ハ之カ保證ヲ官ニ請
フトアリ又開坑穿鑿ノ地方ハ概テ平方四百ヘクテ一ニテ限
ストモ、其事宜ニ據レハ其周圍ニ尚ホ四百ヘクテ一ノ地ヲ許

81

スナリ
又鑛山警察等ノ事ニ関シ開坑免許人ハ免許地面一ヘクテ一
ニ付年々「ライラ」佛銀五十「セ」ノ定税ヲ納ムベキモノトス而シテ
此他尚ホ種々収税ノ義務アリ而シテ在昔鑛山税ナルモノハ其産
出高ノ五分ナリシカ今日ノ収税法ハ所謂ノ産業税ノ主旨ニ基
キタルヲ以テ恰モ夫ノ不動産ノ収税ニ於テスルカ如シ
又第二地層ニ含蓋セル泥炭等ノ類ハ素ヨリ地主自カラ之ヲ開
採スルヲ能クストモ、其ノ許可ヲ得ルニ非サレハ亦採掘
スルヲ得ス蓋シ政府之ヲ許スニ當テ先ツ衛生上人体ニ関スル
利害如何ヲ酌量シ至當ノ規則ヲ設ケ以テ之ヲ遵用セシム
「ガ」子ス地方ハ千八百五十四年五月二十三日制定ノ澳地利鑛山
規則ヲ遵用シ又「バ」ルマ地方ハ「バ」ルマ民法第五百七十六條ニ定
メ「バ」ルマ所ノ鑛山見及ヒ千八百五十二年六月二十一日「カ」

「第三」ノ布告ヲ遵用シ又「イースト」地方ハ千八百八年八月九日制定ノ「チポレオニツタ、ロウ」(則ノ山規)ヲ遵用シ又羅馬ハ嘗テ法王ノ制定セル古典ヲ遵用セリ但シ此古典ハ千八百七十二年六月十七日ノ布告ヲ以テ大ニ改正ヲ加ヘタリ又「ニ」ポリタニ地方ハ「テ含有シ」島「ボルボ」ン家ノ制定セル千八百二十六年十月十七日ノ布告ヲ遵用ス但シ「シ」リ「島」ノ制定セル千八百二十六年十月十七日ノ布告ヲ遵用ス以上列記セル規則ノ要領ハ皆同一ナリト云氏「ハレ」マ候「カ」ロ「第三」五ノ法ニ至テハ鑛山ト鑛坑トノ別ヲ立テスシテ西ナカラ一定ノ規則ヲ以テ之ヲ管理ス又「ニ」ポリタニ「地」方ニ於ケル千八百二十六年十月十七日ノ規則ノ如キハ時ニ官許ヲ得スシテ地主獨權ヲ以テ開鑛スルヲ得ルノ權利ヲ付與セシム但シ地主其ノ力足ラスシテ自カラ開採スレド能ハサレハ或ハ政府之ヲ他ニ許可スレトアリ

82

仔國各地方ノ鑛山規則ハ概テ此ノ如シト云氏獨リ「タ」スカニ「州」ニ至テハ大ニ異ナル所アリ即チ其ノ鑛山規則ハ在昔「モ」ト「ッ」プロツ「ア」リオ「王」ノ制定セルモノニシテ千七百八十八年五月十三日「英」州ノ君長「リ」オ「ホ」ルド「ノ」布告セル所ナリ其ノ規則ニ「過」レハ政府ニ於テ鑛山典奪ノ權ヲ有セル「ト」及ヒ壟斷ニ「涉」レカ如キ諸權利ハ悉皆之ヲ廢止シ凡テ地主タル者ニシテ其所有内ニ鑛山或ハ鑛坑ヲ発見セハ自カラ開採スルヲ得或ハ他人ヲシテ開採セシムルヲ得ルモノトス但シ警察上ニ関スル規定ハ素ヨリ遵奉スルヲ要ス然リ而テ「エ」ル「島」ノ鐵鑛山ハ政府特ニ之ヲ一ノ私立會社ニ托シ以テ開採ノ事ヲ料理セシムルト云フ

シヨージ、ピー、マーン、ニ、謹白

正

大 鐵 備

持殿千八百七十六年十二月二日附第五百四十七号ノ拙翰ヲ以テ進言セルカ如ク茲ニ數書ヲ奉呈ス即チ左ノ如シ

三 仔國嶺山規則書

全二卷

右一ノ卷一「マ」以下、八十四「マ」以下、九十九「マ」以下、百六十二「マ」以下、百八十三「マ」以下、二百四十五「マ」以下、二百九十四「マ」以下各處ニ記載セル所ヲ以テ公使ニ對スル疑問ノ應答ニ充ツ

四 同書二ノ卷二百十八「マ」以下、二百五十二「マ」以下、二百八十八「マ」以下、三百十五「マ」以下各處ニ記載セル所ヲ以テ同上疑問ノ應答ニ充ツ

五 千八百六十一年十二月十二日第三百七十号布告貨幣規則

六 千八百六十二年八月二十四日第七百八十八号布告貨幣規則

規則

三 千八百六十六年七月二十一日第三百八十七号布告貨幣規則但シ仔太利、白耳義、佛蘭西、瑞西、蘭ノ四國締約ヲ為シ千八百六十五年十二月二十三日ヲ以テ巴里ニ會議ヲ開キ以テ議定セル所ニ係ル

四 千八百七十四年八月三十日第二千六十五号布告貨幣規則

五 千八百七十五年七月十七日第二千六百五十一号布告貨幣規則

六 千八百七十六年四月二十六日第三千六十八号布告貨幣規則

七 千八百七十四年四月三十日第九千二百二十号布告貨幣規則

以上列記セル所ハ皆ナ仔國貨幣報告書ヨリ抄出ニ係ル
仔太利通貨報告書 一巻

紙幣流通景况報告書但シ本書ハ仔國大臣「ミンヘツチ」
及ヒ「ヤナリ」両氏ノ名ヲ以テ公布セルモノニシテ我輩未タ
之ヲ通讀セスト虫氏其記セル所極テ緊要ナル旨ヲ傳聞ス故
ニ茲ニ封入スルノミ

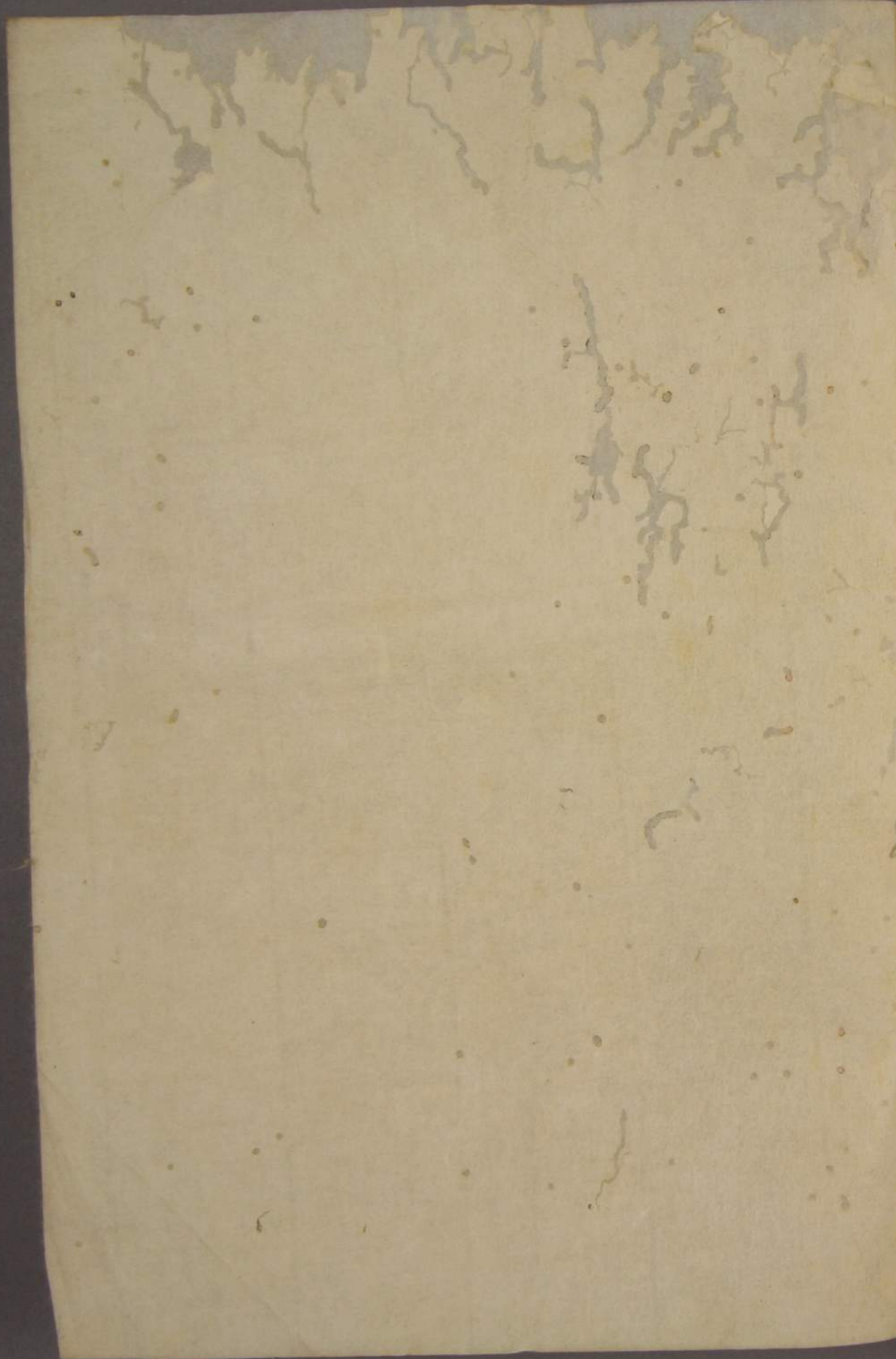
我輩ハ以上ノ數書ヲ以テ一々翻譯ニ付スルノ暇アラサルヲ以
テ敢テ原文ヲ進呈ス伏テ希フ此等書類ニ就編輯成テ上梓スル
ノ日ニ至ラハ其二三書ヲ以テ余ニ投英アラン「ヲ蓋シ嚮ニ此
國ノ紳士余ニ寄送セル所アルカ故聊カ之カ報恩ニ充ント欲ス
ル」微衷アルノミ云云 共頌首再拜
千八百七十六年十二月四日在羅馬

米國公使館

84

ジョージ・ピーマーン謹白

國務院ハミルトン、フ井シニ閣下



天
清
卷

